

【4H1B109】 衛生公衆衛生学		歯科衛生学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	小原 勝						
資格・制限等	特になし						
授業内容	衛生学・公衆衛生学を含めた保健生態学は「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」を学ぶ学問です。「健康を左右する環境」、「健康に関わる地域の役割」で環境衛生について、健康と予防医学、口腔衛生の基礎知識、ライフステージにおける健康管理を学び、集団を対象とした地域保健活動の在り方について理解を深める。						
実務家教員	小原勝；歯科医師（大学病院勤務）・15年						
授業方法	講義を中心として、健康を左右する環境、口腔の健康と予防、健康に関わる地域の役割を理解し、問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて授業を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。						
到達目標	知識・理解	衛生学・公衆衛生学の総論に加えて口腔衛生学の基礎的な知識を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	公衆衛生学・口腔衛生学を日常生活並びに歯科診療に結びつけながら考え、課題や問題点の原因を挙げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	公衆衛生学・口腔衛生学と公衆衛生学・口腔衛生学を結びつけながら、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。小グループ討論で考えた事などを積極的に発表する。グループをまとめ、司会、書記、発表できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	課題提出		10	10	-	-	20
	自己評価		-	-	-	5	5
	受講態度		-	-	-	5	5
	合計(点)		60	30	-	10	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。						
ICT活用	ポータルサイトなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
課題に対するフィードバック	課題には即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどでフィードバック対応します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、健康と予防に関わる社会の仕組みと環境を考える。(授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する、健康を左右する環境衛生と個人と集団に対する健康維持・予防に関わる社会の仕組み・理念[QOL、ノーマライゼーションなど]に関する知識を修得する) P2~3 [課題] (準備) これまで学んだことのある公衆衛生学についてまとめる (1h) (復習) 保健とは何かについて考える (1h) (予習) 健康とは何かについて考える (1h)						
2	健康とは何か?国民の権利を考える①(個人と集団の健康関わる社会の仕組み:プライマリーヘルスケアPHC、ヘルスプロモーションHP、健康日本21等の概念と疾病の要因について理解する) P3~4 [課題] (準備) HC HPについてまとめる (1~2h) (復習) 健康日本21について整理する (1~2h) (予習) 予防医学とは何かについて考える (1~2h)						
3	健康とは何か?国民の権利を考える②(個人と集団の健康関わる社会の仕組み:予防医学[第1~3次]の現状について考える) P4~7 [課題] (準備) 予防医学についてまとめる (1~2h) (復習) 1~3 予防について整理する (1~2h) (予習) 人口調査とは何かについて考える (1~2h)						
4	「人口静態・動態調査」について考える(世界の人口、日本の人口ピラミッド、平均余命[生命表]、高齢化などについて理解を深め、現状について考える) P18~33 [課題] (準備) 人口静態・動態調査についてまとめる (1~2h) (復習) 人口ピラミッドについて整理する (1~2h) (予習) 境問題について考える (1~2h)						
5	周囲の環境問題を考える(地球環境の現状と変化、身近な環境と人間生活の関係、特に空気と水、放射線、住居・衣服、公害、廃棄物処理について理解を深め、現状について考える) P34~59 [課題] (準備) 地球環境の現状と変化についてまとめる (1~2h) (復習) 廃棄物処理について整理する (1~2h) (予習) 感染症について考える (1~2h)						
6	感染症・食品衛生を考えるI(感染症の3大要因を理解し、予防対策を考える。また感染症の分類・特徴、主な感染症の動向を学ぶ) P60~70 [課題] (準備) 感染症の現状と変化についてまとめる (1~2h) (復習) 感染症の3大要因について整理する (1~2h) (予習) 感染症法について考える (1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>感染症・食品衛生を考えるII（感染症法を理解し、予防対策を考える。また感染症の分類・特徴、主な感染症の動向を学ぶ）P70～75</p> <p>〔課題〕 (準備) 感染症法についてまとめる（1～2h） (復習) 重篤な感染症の伝播について整理する（1～2h） (予習) 食中毒について考える（1～2h）</p>
8	<p>感染症・食品衛生を考えるIII（食中毒の分類と特徴を知る。また原因・発生状況を理解し食品の安全確保のための方策を学ぶ。健康日本21[第二次]の食に関する政策を理解する。国民の栄養状態と食中毒の原因を理解し食育の増進を図る）P76～87</p> <p>〔課題〕 (準備) 食中毒の現状と変化についてまとめる（1～2h） (復習) 日本人の栄養について整理する（1～2h） (予習) 地域公衆衛生について考える（1～2h）</p>
9	<p>ライフステージごとの保健管理と地域公衆衛生について考えるI（各ライフステージにおける口腔保健を理解する。また地域社会組織と仕組みと公衆衛生への関わりについて考える）P216～247</p> <p>〔課題〕 (準備) ライフステージごとの口腔保健管理の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 地域公衆衛生の組織について整理する（1～2h） (予習) 母子保健について考える（1～2h）</p>
10	<p>地域保健活動の進め方を理解し、母子保健、小児保健の現状を考える（健康日本21、母子保健、小児保健について現状をまとめる）P248～262</p> <p>〔課題〕 (準備) 母子保健の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 母子保健の組織について整理する（1～2h） (予習) 学校保健について考える（1～2h）</p>
11	<p>学校保健の現状を考える（学校保健の対象者・活動を知り、保健教育・保健管理を理解する。健康診断・事後処置を説明できるようになる。）P263～279</p> <p>〔課題〕 (準備) 学校保健の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 学校保健の組織について整理する（1～2h） (予習) 産業保健について考える（1～2h）</p>
12	<p>産業保健、成人保健の現状を考える（産業保健の目的を知り、職業性疾患を列挙し、保健管理体制と作業環境間、作業管理、健康管理を説明できるようになる。職域における健康診断とトータルヘルスプロモーションプラン（THP）を理解する。また成人生活習慣病のリスクファクターを学び対策を知る。）P280～298</p> <p>〔課題〕 (準備) 産業保健の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 成人保健について整理する（1～2h） (予習) 老人保健について考える（1～2h）</p>
13	<p>老人保健の現状を考える（高齢者の保健福祉対策・介護保険制度の概要を理解する。要介護者の保健福祉対策・地域包括ケアシステムを説明できるようになる）P299～308</p> <p>〔課題〕 (準備) 老人保健の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 介護保険について整理する（1～2h） (予習) 精神保健について考える（1～2h）</p>
14	<p>精神保健、災害時保健、国際保健を考える（精神保健の定義と意義を学ぶ。また大規模災害での保健医療対策を理解する。国際協力、特に開発途上国における保健機関、WHO、JICAの活動を考える）P309～321</p> <p>〔課題〕 (準備) 精神保健の現状についてまとめる（1～2h） (復習) 国際保健の組織について整理する（1～2h） (予習) 公衆衛生についてまとめる（1～2h）</p>
15	<p>まとめと発表（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、公衆衛生や口腔衛生の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する）</p> <p>〔課題(復習)〕 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う（9～11h）</p>
時間外での学修	<p>時間外での学修〔課題〕は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので（ ）の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>身近な環境から世界的視野まで公衆衛生学について考え、口腔衛生学を学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。</p> <p>オフィスアワーは(G205)で毎週(木)曜日(16:10)から(17:40)です。質問などあれば来てください。</p>

【4H1B212】保健情報統計学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
授業内容	口腔疾患の疫学的方法について理解し、口腔領域の統計に関する知識を深めることを目標とする。う蝕・歯周疾患・口腔清掃状態の疫学的特性と問題点、数量化の仕方、計算方法などについても、修得することを目指す。適宜、演習問題を併用し、実践面に役立つ衛生統計学の知識をアクティブ・ラーニングを活用して修得する内容とする。 学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
実務家教員	歯科医師（大病院勤務）：27年					
授業方法	統計処理の基礎編から応用へと段階的に進めて行く授業方法とするため、各回の授業内容を確実に理解することが大切である。また小グループでの討論や発表の活動を含めた授業展開とする。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 保健情報統計の意味とその目標及び手順について説明ができる。 記述統計の基礎的用語が説明できる。 標本抽出の方法を説明できる。 基本的な統計学的手法（主として数値の比較および相関分析）について説明できる。 様々な種類の統計のグラフが理解できる。 齶蝕や歯周疾患の指数の意味を述べ、実際の算出データの評価について説明ができる。 			◎	
	関心・意欲・態度	歯科医療における問題点を、自ら統計学的に解決することができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で評価を行う。受講態度は学修への取組状況によって評価する。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確認するため、授業中に問題演習を行う。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』医歯薬出版(3,080円)ISBN:978-4-263-42817-7					
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	保健情報と保健統計：保健情報の種類と国家統計調査について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
2	保健情報と疫学：健康障害の発生要因と疫学の方法論について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
3	歯科疾患の指数(1)齶蝕について：齶蝕の指数について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
4	歯科疾患の指数(2)歯周疾患について：歯周疾患の指数について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
5	歯科疾患の指数(3)口腔清掃状態について：口腔清掃状態の指数について解説する。 [課題（予習）]口腔清掃状態に関する演習問題を解き、発表をする。(1h)					
6	歯科疾患の指数(4)不正咬合について：不正咬合と歯列不正の指数と歯のフッ素症指数等について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
7	保健情報の収集：インターネットによる保健情報について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
8	調査手順：質問紙作成法の手順と標本抽出について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
9	保健統計の方法(1)：データの特性と記述統計について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
10	保健統計の方法(2)：統計解析の手法について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
11	保健情報の分析演習(1)：スクリーニング検査について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
12	保健統計の分析演習(2)：図表の種類と特徴について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
13	保健統計の分析演習(3)：図表の作り方について学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	情報の保護と倫理(1)：情報社会の特性と問題点について学ぶ。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)
15	情報の保護と倫理(2)：情報の開示と保護の問題点および情報モラルについて学ぶ。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。(1h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、海原研究室(G206)まで問題点を整理して聞きにきてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	テキストや配布資料を使って、基本的な統計学の手法と歯科疾患の指数などについて学びます。 オフィスアワーは、毎週木曜日の5時限目の16：20から17：30です。G206に来てください。

【4H1B113】 衛生行政社会福祉学		歯科衛生学科		2年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	北嶋 勉					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科衛生士は歯科衛生士法に基づく歯科医師の指導のもと一定の予防処置を行う他、歯科診療の補助を行う①、業務の独占がなされる国家資格たる専門職(歯科医療職)である。その成り立ちや取り巻く関係法(歯科医療等)との関連並びに今日的課題である地域医療(歯科医療)との関連から今後の歯科衛生士の役割を学ぶ必要がある。その為には歯科衛生の枠内にとどまることなく、広く社会の成り立ちや地域共生社会を支える社会福祉・社会保障との関連から理解することが益々求められる。クライアントや地域社会に関わる中で本授業が専門職としての歯科衛生士の人間性やコミュニケーションの豊かさの重要性等を学ぶ。					
実務家教員	大垣市社会福祉協議会事務局にて25年間地域福祉、ボランティア育成、生活困窮等諸事業に従事しその後10年間民間事業所にて介護保険事業運営に携わってきた。現在岐阜県社会福祉士会にて障害者等の権利擁護事業に従事している。社会的弱者とされる人の権利擁護が重要と考えている。					
授業方法	テキスト及び要約並びに国等機関で公表の諸調査から今後の地域福祉や地域医療等考える。論述能力育成の観点からいくつかの調査結果から社会福祉等の動向を読み取る力を養いたい。学修チェックを行い自己点検することで基本的な衛生行政、社会福祉の知識を修得する。又、授業毎に出席カードを利用した各自の質問や当方からの設問に対する随時の記述を求めます。					
到達目標	知識・理解	歯科衛生士法に限らず関連法との関わりが理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	歯科衛生業務が地域(医療機関・福祉等施設含め)で果たす役割について理解ができる。			◎	
	技能	各種調査により保健歯科衛生等広く国民の健康データから今日的課題を見出すことができる。			△	
	関心・意欲・態度	課題レポート(2回程度)により社会(地域)への関心の深さや幅の広い知識を身につける。出席カードを活用し質問や課題への記述を求めます。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	30	20	-	-	50
	課題レポート・表現(記述)	-	15	10	5	30
	自己評価	5	-	-	5	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	35	35	10	20	100
評価の特記事項	1. 筆記試験 50点：基本的な知識や記述による思考等を評価する。 2. 課題レポート 30点：随時課題設定のレポート提出を求める。 3. 自己評価 10点：7回を一区切りとし区切り毎の自己評価(学修度)チェック表(当方で作成)により理解できたところ、不足しているところを自覚する。このことにより知識・理解と関心・意欲等それぞれ5点とし、総合的な力をレベルアップする。授業内及び自宅学修によりチェックをします。 4. 受講態度 10点：当該授業に関連のない作業や顔伏せ姿勢は他の学生への負の影響があると判断します。又授業中の無断退席は授業への参加意欲がないものと判断します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	出席カードにより質問や認識事項については質問者に限らず全員に解説等行いたい。出席カードの他に授業終了後積極的に質問がある場合について個別に応えるほか助言を行いたい。初めて聞く制度名や用語は提供する資料の他自主的に確認することを勧めます。そのことを踏まえ各自からの質問などがあれば丁寧に答えたい。ある程度まとまれば全員に資料として提供したい。					
テキスト	『歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第10版』医歯薬出版(3,080円)ISBN:978-4-263-42290-8 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版』医歯薬出版(3,080円)ISBN:978-4-263-42861-0					
参考書・教材	時事問題等当方で準備する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	社会保障制度について学ぶ(1) ①社会保障全般について学ぶ ②社会保障の歴史について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
2	社会保障制度について学ぶ(2) ①ライフステージに応じた社会保障制度について学ぶ ②世界の主な国による社会保障制度を学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
3	衛生行政について学ぶ 衛生行政の目的(日本国憲法との関連)、役割、沿革、仕組みについて学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
4	衛生関係法について学ぶ(1) ①衛生関係法体系を学ぶ ②医師法・歯科医師法を学ぶ ③歯科衛生士法その1を学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
5	衛生関係法について学ぶ(2) ①歯科衛生士法その2を学ぶ ②関連する医療関係者に関する法を学ぶ ③医療法について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
6	衛生関係法について学ぶ(3) ①薬事に関する法を学ぶ ②地域保健に関する法を学ぶ ③食品安全・食育に関する法を学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)					
7	1回から6回までの基本的事項についての確認テストを行う 保健医療の動向について学ぶ(1) ①国が公表する各種統計資料を読み取る ②①の結果考えられることを発表・記述する [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h) [学修チェック1回目]7回までの重要項目を問題形式で作成したものを時間内及び宿題として取り組む。					
8	確認テスト・重要事項について説明し学修の達成度等確認する。 保健医療の動向について学ぶ(2) ①医療施設、医療従事者の動向について学ぶ ②地域格差について考える [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。②について根拠により自身の考えをまとめる。(5h) [学修チェック1回目説明]模範解答及び説明により重要項目を理解する。					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	保健医療の動向について学ぶ(3) ①国民医療費の動向を各種統計資料により読み取る。 ②①により今後の傾向を根拠により予測する [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。②について根拠により推測し記述する。(5h)
10	社会保険について学ぶ(1) ①社会保険の沿革・行政組織を学ぶ ②医療保険と年金制度について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
11	社会保険について学ぶ(2) ①雇用保険制度等について学ぶ ②介護保険制度について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h) [各種データの分析]代表的な調査結果から現在及び今後の社会福祉問題を論述するための説明を行う。 成果物は課題レポートとして評価する。(上記評価方法参照)
12	社会福祉について学ぶ(1) ①社会福祉と社会保障について学ぶ ②社会福祉の沿革について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
13	社会福祉について学ぶ(2) ①行政組織・担い手について学ぶ ②生活保護法等主たる福祉関係法について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h) [学修チェック2回目]8回から13回までの学修チェックを1回目と同様行う。
14	7回から13回までの基本的事項についての確認テストを行う 保健医療の実務について学ぶ ①診療報酬の仕組みについて学ぶ ②保健医療機関での実務について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をとおしておく。(4h) [学修チェック2回目説明]1回目と同様説明し重要項目を理解する。
15	全体的まとめ 2回の学修チェック表を元に更に重要な項目の理解を深める。 *定期試験では、①を踏まえ選択方式及び記述式による筆記試験を行う。論述評価は11回目に事前説明したとおりで最終授業日に成果物を提出。
時間外での学修	事前にテキストに目をとおしておくこと。制度は全ての条項を理解し記憶することは極めて困難でありそのことを目的としない。しかし制度の成り立ち・目的・理念・原理等についてはしっかり理解する必要がある。日ごろから新聞やニュース等で社会福祉・社会保障又生活関連記事に意識し根拠により批評・批判することは大切と考える。 課題レポートではテキストに限らず様々な学修資料を用いて論述してもらうがまる写しは減点し、把握内容を元にした自分の考えや意見を表記するよう求めます。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	社会福祉は人間理解をおし適切なサービスを提供する上での技術やその向上を基本とし健康・生きがい・楽しさ・喜びを作り上げる「複合的支援体制」でもある。専門職を目指す者としての品格を高め、探求心の向上を期待します。出席カードの裏面に様々な疑問点を記載してください。質問事項に答え、授業の参考とします。 オフィスアワー：講義終了後教室にて

【4H2S203】保存修復・歯内療法学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	加藤 智樹					
資格・制限等	特になし					
授業内容	「保存修復学」では、歯の硬組織疾患によって生じた歯の欠損部の形態・機能・審美性の回復と維持について学ぶ。歯の保存修復の治療内容だけでなく、原因疾患の発生リスク抑制や、再発予防について学ぶ。「歯内療法学」では、う蝕・外傷などの硬組織疾患に続発して起こる歯髄および根尖歯周組織の疾患について、病態や治療法などについて学ぶ。					
実務家教員	加藤智樹：歯科医師（大学病院等勤務10年）					
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とし、教科書だけでなくスライドや配付資料も併用しながら行う。講義の実施にあたっては「レポート課題」や「事前調べと発表」を取り入れ理解を深める。（状況により遠隔授業となることがある）					
到達目標	知識・理解	・歯質の保存を意識した治療法を理解する。 ・「う蝕」および「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」についての病態を理解し、治療法を理解する			◎	
	思考・判断・表現	・「う蝕」および「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療法を説明できる。			△	
	関心・意欲・態度	保存修復学および歯内療法学に関心を持ち、積極的に学修に取り組むことが出来る。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		筆記試験	50	-	-	-
	小テスト	20	-	-	10	30
	レポート	-	10	-	10	20
	合計(点)	70	10	-	20	100
評価の特記事項	筆記試験は「定期試験」になります。「小テスト」は複数回行い、最終的に30点に換算します。					
ICT活用	オンラインによる知識チェックを行います					
課題に対するフィードバック	筆記試験・小テスト・レポートの実施後に、重要事項の確認を行います					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患、保存修復・歯内療法』松井恭平 他 医歯薬出版(4,620円) ISBN:978-4-263-42820-7 必要な資料は適宜配付する。					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	○「保存修復・歯内療法」のオリエンテーション ・歯の保存の意義 ・歯の構造と検査 →歯の保存・歯質の保存について理解し、口腔内とくに歯牙の検査について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
2	○「う蝕」の治療① ・う蝕発生のメカニズム/好発部位 ・う蝕治療概要/窩洞の分類 ・歯科麻酔 →「う蝕」の発生原因と治療の流れについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
3	○「う蝕」の治療② ・生活歯/歯の切削 ・歯髄保護の手法概要 ・保存修復法の種類と材料 →生活歯の特徴を理解する。各歯髄保護法の概要について理解する。成形修復法とインレー修復法の概要について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
4	○「う蝕」の治療③ ・直接法修復と間接法修復 ・コンポジットレジン/歯質接着 ・歯科用セメント① →う蝕治療における「直接法修復」を理解する。歯質接着を意識したレジン修復などを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
5	○「う蝕」の治療④ ・インレー(アンレー)修復とは ・メタルインレー/コンポジットレジンインレー/セラミックインレーなど ・ラミネートベニア修復 ・歯科用セメント② →う蝕治療における「間接法修復」を理解する。歯科用セメントの種類と特徴を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
6	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療① ・象牙質知覚過敏 ・歯髄疾患と歯髄保存療法 →歯髄疾患の分類と病態を理解する。歯髄保護と保存法について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					
7	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療② ・断髄と抜髄 ・根管治療/根管充填 ・特殊な根管処置(アペキシゲネシス/アペキシフィケーション) →歯髄除去の方法と根管における治療を理解する。歯科補綴学的対応との連携を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療③ <ul style="list-style-type: none"> ・感染根管治療 ・外科的歯内療法 ・歯内療法時の安全対策 →根尖性歯周炎の成り立ちと治療について理解する。根管治療時の偶発症について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
9	○歯の外傷と治療 <ul style="list-style-type: none"> ・歯の外傷の種類 ・歯牙破折の治療 ・歯牙脱臼への対応 →外傷歯に対する対応について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
10	○保存修復・歯内療法で使用材料・薬剤 <ul style="list-style-type: none"> ・う窩消毒薬および根管消毒薬 ・消炎鎮痛剤 ・根管充填剤 ・レジン/セラミックス/ハイブリッド →保存修復治療・歯内療法治療で用いられる材料と薬剤の種類と注意点などについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
11	○保存修復・歯内療法治療の実際(症例検討①) →モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
12	○保存修復・歯内療法治療の実際(症例検討②) →モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
13	○保存修復・歯内療法治療の実際(症例検討③) →モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
14	○まとめと振り返り① <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項の確認①/問題演習① →保存修復・歯内療法学における重要事項の確認を行い、問題演習により理解を深める。 [課題(復習)]歯科保存学関連用語を整理し説明できるようにする。(2h)
15	○まとめと振り返り② <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項の確認②/問題演習② →保存修復・歯内療法学における重要事項の確認を行い、問題演習により理解を深める。 [課題(復習)]歯科保存学関連用語を整理し説明できるようにする。(2h)
時間外での学修	講義内容について教科書や配布プリント・インターネットなどを利用し復習しましょう。歯科補綴学と保存修復・歯内療法学は歯科の基本ですので確実に理解し修得するようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保存修復治療と歯内療法は、歯科において非常に頻度が高い治療です。いずれの内容についても、病態、診断、診療内容および手順についてよく理解し説明出来るようになりますように。質問などは担当教員までして下さい。担当教員のオフィス(研究室)は「G204」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。

【4H2S204】 歯科補綴学		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	加藤 智樹						
資格・制限等	特になし						
授業内容	「歯科補綴学」は、歯や関連組織の欠損によって生じる顎口腔系の機能障害、および審美性の回復を目的とする学問である。補綴歯科装置の種類や治療全体の流れ、補綴装置作製における技工操作など、補綴歯科治療時における専門的知識について解説する。						
実務家教員	加藤智樹：歯科医師（大学病院等勤務10年）						
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とし、教科書だけでなくスライドや配付資料も併用しながら行う。講義の実施にあたっては「レポート課題」や「事前調べと発表」を取り入れ理解を深める。（状況により遠隔授業となることもある）						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 歯の欠損状態と口腔の変化について理解する。 補綴歯科装置の種類と特徴について理解する。 歯科補綴治療の重要性を理解し、治療過程を理解する。 			◎		
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な歯科補綴治療の流れについて説明できる。 一般的な歯科補綴装置について説明できる。 			△		
	関心・意欲・態度	歯科補綴治療における検査と診断および治療時の業務や患者指導に関心を持ち、自らすすんで学修に取り組むことが出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	-	-	-	50
	小テスト		20	-	-	10	30
	レポート		-	10	-	10	20
	合計(点)		70	10	-	20	100
評価の特記事項	筆記試験は「定期試験」として実施し、50点分となります。「小テスト」は複数回行い、最終的に30点に換算します。						
ICT活用	オンラインにての知識確認を実施する。						
課題に対するフィードバック	筆記試験・小テスト・レポートの実施後に、重要知識の確認と整理を行う。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版』赤川安正 他 医歯薬出版(3,740円) ISBN:978-4-263-42864-1						
参考書・教材	必要な資料を適宜紹介または配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	○歯科補綴学オリエンテーション ・口腔および顎・顔面の解剖と生理 ・「補綴歯科」とは ・補綴歯科治療の意義と目的/咬合および咀嚼の重要性 →歯の「欠損」とは何かを理解し、補綴治療の目的と「咬合」と「咀嚼」について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
2	○補綴歯科装置の種類と治療① ・固定性補綴装置と可撤性補綴装置 ・歯冠の欠損と被覆冠(クラウン)による治療 ・支台歯形成(生活歯、失活歯)とコア/印象採得概要など →クラウンの種類と、クラウンによる補綴治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
3	○補綴装置の種類と治療② ・歯の欠損と補綴治療 ・橋義歯(ブリッジ)/床義歯 ・プロビジョナルレストレーション →歯の欠損に対する各治療方法のメリットとデメリットを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
4	○補綴装置の種類と治療③ ・インプラント治療 →歯の欠損に対するインプラント治療の実際およびメリット・デメリットを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
5	○補綴歯科治療で使用する装置・器具・材料① ・歯牙切削および研磨用装置 ・印象採得および咬合採得用器材 ・咬合器 →補綴治療で使用する器具・材料について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
6	○補綴歯科治療で使用する装置・器具・材料② ・接着剤 ・人工歯の種類 ・床義歯用レジン →補綴治療で使用する器具・材料について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						
7	○補綴装置のメンテナンスと修理 ・補綴装置の清掃法 ・補綴装置の修理 →固定性補綴装置および可撤性補綴装置の清掃とメンテナンスについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	○顎補綴治療 ・顎欠損 ・口腔外科との連携 →顎補綴治療の流れについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
9	○顎運動と顎関節症 ・ヒトの下顎の動き ・顎関節の特殊性 ・顎関節症の治療 →顎運動について理解し、顎関節症の発生と症状・治療について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
10	○補綴歯科治療の実際(症例検討①) →モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
11	○補綴歯科治療の実際(症例検討②) →モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
12	○補綴歯科治療の実際(症例検討③) →モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
13	○補綴歯科治療の実際(症例検討④) →モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
14	○まとめと振り返り① ・重要事項の確認と問題演習① →歯科補綴学における重要用語を理解し、問題演習を通じ理解を深め、説明出来るようになる。 [課題(復習)]歯科補綴学関連用語を整理し、説明出来るようにする。(2h)
15	○まとめと振り返り② ・重要事項の確認と問題演習② →歯科補綴学における重要用語を理解し、問題演習を通じ理解を深め、説明出来るようになる。 [課題(復習)]歯科補綴学関連用語を整理し、説明出来るようにする。(2h)
時間外での学修	講義の内容を教科書や配布プリントを利用しよく復習しましょう。歯科において補綴治療は大きなウエイトを占める分野ですので理解を深め、確実に学修しましょう。理解できないことや疑問点があれば担当教員まで質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	教科書や配布プリント・インターネット・参考文献などで図をよく見てイメージするようにして下さい。担当教員のオフィス(研究室)は「G204」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。

【4H2S205】口腔外科学		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	小原 勝						
資格・制限等	特になし						
授業内容	今まで歯科衛生士の業務はう蝕と歯周病に対する予防を担う面が多かったのですが、現在の高齢化社会において顎・口腔粘膜の病変患者も多く、また全身疾患を患う歯科患者に対する専門的な知識が必要とされています。さらに歯科衛生士にとって周術期の口腔管理や口腔がんの早期発見の手助けなど口腔観察も重要な業務となっています。この授業では口腔外科・歯科麻酔を学ぶことで口腔のみならず、患者の基礎疾患を理解し対応できる歯科衛生士になること目指します。						
実務家教員	小原勝；歯科医師（大学病院勤務）・15年						
授業方法	講義を中心として、歯科衛生士が日常業務を行うために必要な口腔外科・歯科麻酔、特に顎・口腔粘膜疾患や基礎疾患を理解し、問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて授業を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には口頭もしくはポータルサイトなどで対応します。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が口腔外科の介助を含めた日常業務を行うために必要な顎・口腔粘膜疾患の基本的な知識を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	口腔外科と患者の基礎疾患を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	口腔外科や一般歯科治療と全身疾患を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことが出来る。小グループ討論で考えた事などを積極的に発表する。グループをまとめ、司会、書記、発表できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	20	-	-	70
	課題提出		10	10	-	-	20
	自己評価		-	-	-	5	5
	受講態度		-	-	-	5	5
	合計(点)		60	30	-	10	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。						
ICT活用	ポータルサイトなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどでフィードバック対応します。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(3,740円)ISBN:978-4-263-42823-8						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、口腔外科の概要について考える（口腔外科の特徴と主な疾患について分類・診断と治療の概要を理解する。また口腔病変と関連する全身疾患を循環器・呼吸器・代謝性疾患・肝腎臓疾患などに分けて学ぶ）P2～18 [課題] (準備) これまで学んだことのある口腔外科についてまとめる（1h） (復習) 口腔外科と全身疾患について考える（1h） (予習) 顎・口腔領域の先天異常について考える（1h）						
2	顎・口腔領域の先天異常・発育異常について考える（歯の発育異常、口腔軟組織の発育異常、口唇・口蓋裂、顎の先天異常について理解する）P19～33 [課題] (準備) 顎・口腔領域の先天異常についてまとめる（1～2h） (復習) 口唇・口蓋裂について整理する（1～2h） (予習) 顎・口腔領域の外傷とは何かについて考える（1～2h）						
3	顎・口腔領域の外傷について考える（口腔軟組織の損傷、歯、歯槽の外傷、顎骨骨折について理解する。また顎関節疾患[脱臼・顎関節症]について学ぶ）P34～49 [課題] (準備) 顎・口腔領域の外傷についてまとめる（1～2h） (復習) 顎関節疾患について整理する（1～2h） (予習) 口腔粘膜疾患とは何かについて考える（1～2h）						
4	口腔粘膜疾患について考える（水泡形成、紅斑形成、潰瘍形成、白斑形成、色素沈着、口腔乾燥、貧血などを特徴とする口腔粘膜疾患を理解する）P50～79 [課題] (準備) 口腔粘膜疾患についてまとめる（1～2h） (復習) 特に口腔がんについて整理する（1～2h） (予習) 口腔領域の化膿性疾患とは何かについて考える（1～2h）						
5	顎・口腔領域の化膿性疾患を考える（炎症とはなにかを理解し、歯周組織の炎症、顎骨の炎症を学ぶ。）P80～88 [課題] (準備) 口腔領域の化膿性疾患についてまとめる（1～2h） (復習) 特に膿瘍について整理する（1～2h） (予習) 口腔領域の嚢胞性疾患とは何かについて考える（1～2h）						
6	顎・口腔領域の嚢胞性疾患を考える（歯に関係ある嚢胞とそうでない嚢胞を区別して理解する）P89～96 [課題] (準備) 口腔領域の嚢胞性疾患についてまとめる（1～2h） (復習) 顎骨にできるもの軟組織にできるものについて整理する（1～2h） (予習) 口腔領域の腫瘍性疾患とは何かについて考える（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	顎・口腔領域の腫瘍性疾患を考える①（良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、また歯に関係する腫瘍と、そうでないものを区別する。）P97～108 [課題] (準備) 口腔領域の腫瘍性疾患についてまとめる (1～2h) (復習) 口腔領域の良性腫瘍について整理する (1～2h) (予習) 口腔領域の悪性腫瘍とは何かについて考える (1～2h)
8	顎・口腔領域の腫瘍性疾患を考える②（悪性腫瘍を学ぶ）P97～108 [課題] (準備) 口腔領域の悪性腫瘍についてまとめる (1～2h) (復習) 特に扁平上皮がんの分類・治療について整理する (1～2h) (予習) 腫瘍類似疾患とは何かについて考える (1～2h)
9	顎・口腔領域の腫瘍類似疾患を考える（エプーリスを学ぶ）P97～108 [課題] (準備) 口腔領域の腫瘍類似についてまとめる (1～2h) (復習) エプーリスの分類・治療について整理する (1～2h) (予習) 唾液腺疾患とは何かについて考える (1～2h)
10	唾液腺疾患を考える（唾液腺関連疾患・良性・悪性腫瘍を学ぶ）P112～121 [課題] (準備) 唾液腺疾患についてまとめる (1～2h) (復習) 特に唾液腺腫瘍の分類・治療について整理する (1～2h) (予習) 口腔領域の神経疾患とは何かについて考える (1～2h)
11	口腔領域の神経疾患を考える（顎口腔領域の知覚神経と運動神経の疾患を理解する。）P122～129 [課題] (準備) 口腔領域の神経疾患についてまとめる (1～2h) (復習) 特に三叉神経痛・顔面神経麻痺について整理する (1～2h) (予習) 口腔外科小手術について考える (1～2h)
12	口腔外科小手術を考える（消炎手術、抜歯術、嚢胞摘出術、歯根端切除術、良性腫瘍摘出術、口腔インプラント術について理解を深める）P130～172 [課題] (準備) 口腔外科小手術についてまとめる (1～2h) (復習) 特に軟組織・硬組織小手術について整理する (1～2h) (予習) 歯科麻酔について考える (1～2h)
13	局所麻酔と鎮静法を考える（薬について理解し、バイタルサイン、全身偶発症を学ぶ。）P174～193 [課題] (準備) 局所麻酔についてまとめる (1～2h) (復習) 鎮静法について整理する (1～2h) (予習) 全身麻酔について考える (1～2h)
14	全身麻酔と救急蘇生を考える（術前の状態評価と全身麻酔法を理解し、術中管理、救急蘇生、一次救命処置を学ぶ） [課題] (準備) 全身麻酔についてまとめる (1～2h) (復習) 救急蘇生について整理する (1～2h) (予習) 口腔外科・歯科麻酔についてまとめる (1～2h)
15	まとめと発表（これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔外科・歯科麻酔の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する） [課題(復習)] 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う (9～11h)
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	身近な環境から世界的視野まで口腔外科・歯科麻酔について考え、これらを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。オフィスアワーは(G205)で毎週(木)曜日(16:10)から(17:40)です。質問などあれば来てください。

【4H2S207】矯正歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
授業内容	<p>歯科矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因・診断・治療内容について学ぶこと、歯科衛生士が矯正治療での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を行うための基本を身につけることを目標とする。また、不正咬合の原因となる様々な口腔習癖の除去への指導などについても理解を深め、アクティブ・ラーニングを活用して修得できる授業内容とする。</p> <p>学生からの要望やメッセージがあった場合、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。</p>					
実務家教員	歯科医師（大学病院勤務）：27年					
授業方法	講義と小グループでの討議形式を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる歯科矯正領域の様々な問題解決に向けて、思考する能力育成を重視した授業方法をとる。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・顎・顔面・頭蓋および歯列の成長発育について理解ができる。 ・不正咬合の分類、原因、予防について説明ができる。 ・矯正治療による歯の移動方法が理解ができる。 ・矯正治療に適応する装置について、名称およびどのような症例に適用可能かについて説明ができる。 ・矯正治療に使用する器具の説明ができる。 ・患者に対して、矯正治療の動機づけができる。 ・歯科矯正中の口腔衛生指導・管理について説明ができる。 			◎	
	関心・意欲・態度	歯科矯正に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）にて評価を行う。受講態度は学修への取組状況によって評価する。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』医歯薬出版(3,300円) ISBN:978-4-263-42825-2					
参考書・教材	山内和夫/他編『歯学生のための歯科矯正学』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	矯正歯科治療の概要：歯科矯正学の定義目的、必要性、歴史について説明する。矯正治療における歯科衛生士の役割についても言及する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に矯正歯科治療における歯科衛生士の役割についてまとめる。(1h)					
2	成長発育：頭部と顔面の成長発育について述べた後、特に上顎・下顎それぞれの発育様式と歯列の成長についても解説していく。 [課題（予習）]学修内容を予習し、顎・顔面・頭蓋の成長発育についてまとめる。(1h)					
3	正常咬合と不正咬合：乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期におけるそれぞれの正常咬合について述べ、歯科矯正治療のゴールとしての咬合について考える。[課題（予習）]学修内容を予習し、特に不正咬合の分類についてまとめる。(1h)					
4	矯正歯科診断：歯科矯正における診査、診断、治療計画の立て方について述べるが、特に症例分析法について詳述する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、歯科矯正における診査、診断、治療計画の流れについてまとめる。(1h)					
5	矯正歯科治療と力：矯正力の種類について述べた後、歯の移動と組織反応、さらには歯の移動様式について詳述する。[課題（予習）]学修内容を予習し、矯正力による圧迫側、牽引側での病理学的反応についてまとめる。(1h)					
6	矯正装置について(1)：可撤式矯正装置と固定式矯正装置について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、可撤式と固定式の矯正装置の適応症についてまとめる。(1h) [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)					
7	矯正装置について(2)：機能的矯正装置、上顎側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置等について解説する。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に機能的矯正の意味と顎外固定装置の種類についてまとめる。(1h)					
8	上下顎の不調和：上下顎の近遠心的関係と垂直的關係の不調和について述べる。1～7回目の授業内容の確認も行う。 [課題（予習）]学修内容を予習し、特に上顎前突、下顎前突、開咬、過蓋咬合についてまとめる。(1h)					
9	成人矯正：成人矯正歯科治療の実際について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、成人の矯正歯科治療の診断とその治療についてまとめる。(1h)					
10	口腔顎顔面の形成異常：口唇・口蓋裂、顎変形症について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、口腔顎顔面に生じる先天的形成異常とその対応についてまとめる。(1h)					
11	歯の埋伏と歯数の異常：埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯への対処法についてまとめる。(1h)					
12	矯正歯科治療のトラブル：齶蝕、歯肉炎症、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症、アレルギー等に対する対応について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、矯正歯科治療のトラブルの具体例とその対応についてまとめる。(1h)					
13	矯正歯科診療時の業務：矯正歯科器具・材料の準備と取り扱い、矯正装置の補助と指導について述べる。 [課題（予習）]学修内容を予習し、矯正歯科診療時の歯科衛生士の実務業務についてまとめる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	矯正歯科患者と口腔保健管理：歯科矯正における歯科衛生士の役割として特に口腔衛生指導・管理を中心に述べる。8～14回目の授業内容の確認をする。 【課題（予習）】学修内容を予習し、歯科矯正における歯科衛生士の口腔保健管理の重要性についてまとめる。(1h)
15	口腔筋機能療法：口腔筋機能療法の指導法とその効果について述べる。 8～14回目の授業内容の確認をする。 【課題（予習）】学修内容を予習し、口腔筋機能療法の実際の手順についてまとめる。(1h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点があれば、海原研究室(G206)を訪ねてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来歯科衛生士として、歯科矯正学を担う者としての自覚を十分にもって、予習・復習をきちんと行い授業に積極的に取り組むこと。 オフィスアワーは、毎週木曜日の5時限目16：20から17：30です。G206を訪ねてください。

【4H2S208】高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	海原 康孝・久本 たき子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	わが国は超高齢社会を迎え、高齢者の口腔の健康維持・増進には、高齢者それぞれの身体的・精神的状況に応じた適切な口腔健康管理の実践が緊急の課題になっている。また、障害者歯科は、障害者の健康な生活を支援するために、安全で障害特性や生活状況を踏まえた歯科医療を提供することである。この科目では、高齢者・障害者への歯科的支援を実際に行うための基盤となる専門的知識を修得できることをねらいとする。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
実務家教員	久本：歯科医院・口腔保健センター歯科衛生士・6年 海原：歯科医師(大学病院勤務)・27年					
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる障害者歯科並びに高齢者歯科領域の様々な問題解決に向けて思考する基礎知識を獲得する授業である。					
到達目標	知識・理解	1. 障害の概念、障害者歯科の意義、行動調整、生活および歯科的支援について説明できる。 2. 障害の種類と全身および歯科的特徴、歯科的対応と歯科保健について説明できる。 3. 高齢者をとりまく社会の環境について説明できる。 4. 加齢による身体的疾患・精神的疾患および口腔疾患について説明できる。 5. 高齢者の生活機能の評価について説明できる。			◎	
	関心・意欲・態度	毎回の授業を主体的に受講し、自己の学修成果を振り返る。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	自己評価	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	筆記試験 90点(海原45点 久本45点)で知識・理解を評価し、自己評価では、授業での取り組みでの関心・意欲・態度の評価をします。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、次回の授業で確認テストを実施し知識の整理を行います。障害者歯科の授業時間に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行います。また、知識が身についているかどうかを確かめるために、授業中に問題演習を行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』医歯薬出版株式会社(2,640円)ISBN:978-4-263-42836-8 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社(2,860円)ISBN:978-4-263-42835-1					
参考書・教材	日本障害者歯科学会 [編] 『スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版』医歯薬出版 10,450円					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(海原)	障害者の現況と歯科診療：障害者の概念について述べ、障害者歯科の意義、障害者の生活と歯科的支援について解説する。 [課題(復習)]障害者歯科の特徴についてまとめる。(1h)					
2(海原)	障害の種類と歯科的特徴：精神遅滞、ダウン症候群、自閉性障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかん、重症心身障害の歯科的特徴について理解する。 [課題(復習)]障害の種類と全身所見および歯科的特徴についてまとめる。(1h)					
3(海原)	障害者の服用薬と歯科保健：障害者の服用薬と歯科保健について学ぶ。 [課題(復習)]障害者の服用薬と歯科保健について調べる。(1h)					
4(海原)	1回～3回までの課題を確認する。 障害者歯科における歯科衛生士の役割：障害者への対応の仕方の基本、業務記録の管理、摂食嚥下障害について学ぶ。 [課題(復習)]障害者に対する基本的対応や業務記録とその管理、摂食嚥下障害への対応についてまとめる。(1h)					
5(海原)	障害者の歯科診療と歯科診療補助：障害特性を踏まえた歯科診療補助、歯科治療時の工夫と留意点、行動調整について、障害別の対応について学ぶ。 [課題(復習)]障害特性を踏まえた歯科診療補助や患者対応についてまとめる。(1h)					
6(海原)	障害者の口腔保健管理：歯科衛生士から障がい者への口腔保健管理の留意点と実際について学ぶ。 [課題(復習)]障害者の口腔保健管理をする上での留意点と方法についてまとめる。(1h)					
7(海原)	4回～6回までの課題を確認する。 障害者の歯科保健指導：歯科衛生士から障害者への歯科保健指導の留意点と実際について解説する。 [課題(復習)]障害者への歯科保健指導の留意点と実際についてまとめる。(2h)					
8(海原)	障害者歯科で学んだ知識のまとめ					
9(久本)	I編 高齢者をとりまく社会の環境 1章 高齢社会と健康、 2章 高齢者にかかわる法制度：老人保健・医療・福祉対策の経緯について概略を述べ、学ぶ。 [課題(復習)]高齢者にかかわる法制度について調べる。(1h)					
10(久本)	I編 高齢者をとりまく社会の環境：介護保険制度、高齢者の居住形態・施設について特徴を学ぶ。 [課題(復習)]介護保険制度の内容についてまとめる。(1h)					
11(久本)	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患：加齢に伴う身体的機能の変化について学ぶ。 [課題(復習)]加齢に伴う身体的機能の変化についてまとめる。(1h)					
12(久本)	9回～11回の課題について確認する。 II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患：高齢者の精神・心理的变化について学ぶ。 [課題(復習)]高齢者の精神・心理的变化についてまとめる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
13(久本)	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患：高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患について学ぶ。 [課題（復習）]高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患についてまとめる。（1h）
14(久本)	III編 高齢者の状態の把握：高齢者の生活機能の評価 生活・ADL等の評価を学び、認知機能の評価項目を理解するためにロールプレイを行い、討論する。 [課題（復習）]高齢者の生活機能の評価について復習する。（1h）
15(久本)	12回～14回の課題について確認する。 III編 高齢者の状態の把握：高齢者の栄養状態、高齢者の薬剤服用、VI編高齢者に関わる医療と介護について学ぶ。 [課題（復習）]高齢者の栄養状態、薬剤服用について復習する。（1h）
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、問題点を整理してオフィスアワー等に質問にきてください。[課題]は授業の到達目標に必要な内容ですので（ ）の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修をすすめましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来歯科衛生士として、高齢者や障害者歯科等の歯科医療を担う一員としての自覚を十分に持ち、予習・復習を行い、授業に積極的に出席してください。 オフィスアワーは、木曜日5時限(海原)：研究室（G206：G号館2F）、木曜日5時限(久本)：研究室（G304：G号館3F）です。

【4H2S109】医療保険		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科治療の内容と流れを把握し、将来医療従事者として必要な医療保険に関する基礎知識、診療録の整理、診療報酬明細などの診療室における業務について学ぶ。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
実務家教員	歯科医師(大学病院勤務)・27年					
授業方法	講義を主とし、歯科疾患の進行状況に沿った症状とそれに対する病名、処置内容についての理解を深める。症例別の保険請求の方法について学修する。授業に発表や討論も取り入れる。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
到達目標	知識・理解	保険医療制度の規則や規約を知った上で、歯科診療における傷病名や処置・検査・薬剤等についての基本的な知識を理解できる。			◎	
	関心・意欲・態度	多種にわたる歯科治療について、カルテの内容の解釈や保険請求の方法などに関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。					
テキスト	『歯科保険請求マニュアル 令和3年度版 歯の知識と請求の実務』医歯薬出版(5,060円)					
参考書・教材	適宜紹介または配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	保険の基礎知識、レセプトと保険請求の仕組み (レセプトの基礎知識と医療保険の位置づけ、請求明細書の書き方、略記号などを学ぶ。) [課題(復習)]レセプトと保険請求の仕組みを復習し、まとめる(4h)。					
2	請求明細書の書き方 (基本診療料、指導管理等、画像診断(エックス線検査)、検査関連などについて学ぶ。) [課題(復習)]請求明細書の書き方について復習し、まとめる(4h)。					
3	初期う蝕の治療の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。1、2の課題の確認も行う。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)。					
4	歯髄・根管処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)。					
5	歯周治療の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)。					
6	歯冠修復やブリッジ処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)。					
7	有床義歯処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)。					
8	傷病名、処置・手術名、歯科用医薬品など歯科の診療録および診療報酬明細書に使用できる略称について (3~7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]診療録の内容が理解できるよう略称を確実に覚えるようにし、まとめる(4h)					
時間外での学修	歯科医療に携わる際、歯科保険診療の略称や保険請求などに関する知識は必須です。まだ実際に歯科医療に従事していない学生にとっては、とっつきにくい内容であるかもしれません。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】					
受講学生へのメッセージ	歯科疾患名と診療手順をよく理解しておくことが必要です。2年生の前期までに学修した臨床科目の基礎的知識を再確認しておきましょう。オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。					

【4H2A111】臨床医学		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	竹中 裕					
資格・制限等	特になし					
授業内容	本講義ではリハビリテーションの概論と臨床を学ぶことによって、歯科衛生士が果たすべき役割について理解を深めたいと思います。1人の人間が障害を負いながらも円満な社会生活をもう一度作り上げていくためにはチームアプローチすることが必須で、口腔の健康に携わる歯科衛生士もチームの一員として関わりを持つ機会があります。病院で行われているリハビリテーションの実際を実技・実演を交えながら伝達することで、本学で学んできたリハビリテーションに関する知識と臨床が結び付き起点となると考えます。					
実務家教員	病院理学療法士：14年					
授業方法	レジメを用いた講義形式が基本となります。リハビリテーションを学ぶために必要な心身機能について理解を深めるための演習も実施します。					
到達目標	知識・理解	リハビリテーション医療と歯科医療の相違点を考えながらリハビリテーションの臨床を理解することができる			◎	
	思考・判断・表現	講義内で説明する臨床場面から、リハビリテーションを受ける必要がある方々の健康問題の解決に必要な論理的な判断・適切な説明ができる			○	
	技能	リハビリテーションチームの一員としての歯科衛生士の活動範囲や役割について理解できる			△	
	関心・意欲・態度	演習や課題を通じてリハビリテーションに関連する基本技術や機器の特性を理解し、臨床に結びつけることができる			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	70	-	-	-	70
	小テスト	-	15	-	-	15
	実演、実技	-	-	5	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	70	15	5	10	100
評価の特記事項	定期試験(知識・理解)ならびに毎時間実施する小テスト(思考・判断・表現)で評価を行います。講義内では演習・実技も実施する予定ですが、記録の有無や受講態度も評価に加味します。欠席回数と単位授与の可否に関しては本学教育要領に沿って決定します。					
ICT活用	COVID-19の影響如何で、リモート講義やチャット機能の使用を視野に入れて講義を実施します。					
課題に対するフィードバック	毎時間実施する予定の小テストについて、次回授業時にコメントを述べます。					
テキスト	テキストは使用しません。予め配布されるレジメに沿って講義を行います					
参考書・教材	摂食嚥下リハビリテーション 第3版 才藤栄一監修 医歯薬出版 2016					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	リハビリテーション概論(リハビリテーションの領域で働く職種・業務内容を解説する) [課題(復習)]これまでに学んだリハビリテーション医学について復習する(3h)					
2	脳血管障害発症後のリハビリテーション(1)(疾患の急性期、回復期の各時期のリハビリテーションについて学び、脳血管障害発症後に変化する心身機能について理解を深める。) [課題(復習)]疾患の急性期に実施できる口腔ケアについて自分なりの考えをまとめる(6h)					
3	脳血管障害発症後のリハビリテーション(2)(疾患の回復期、維持期の各時期のリハビリテーションについて学び、脳血管障害発症後の患者様が在宅でどのように生活を再建していくのか理解を深める) [課題(復習)]疾患の回復期～維持期に実施できる口腔ケアについて自分なりの考えをまとめる(6h)					
4	高次脳機能障害のリハビリテーションと運動学習(脳卒中や頭部外傷後におこる脳の障害の一部を学び、それらに対するリハビリテーションについて理解する。また、課題設定と運動学習について実演を交えて解説する) [課題(復習)]脳の機能について復習する(5h)					
5	関節手術後のリハビリテーション(脊髄疾患について、脊椎術後のリハビリテーションについて、近年注目されている顎関節に対する運動療法についての解説を行う。脊椎疾患患者様がデンタルチェアで施術を受ける際に留意すべき点について理解する) [課題(復習)]自分自身の顎関節・頸椎・胸腰椎関節可動域について把握・理解しておく(5h)					
6	摂食・嚥下リハビリテーション(1)(リハビリテーション目的で入院される患者様に対する口腔ケアの特殊性、嚥下障害への対応について理解するとともに、嚥下障害のスクリーニング検査を体験する) [課題(復習)]頸部機能と口腔機能が密接に関係していることを復習する(4h)					
7	摂食・嚥下リハビリテーション(2)(嚥下障害の確定診断である嚥下造影検査、近年注目されている嚥下内視鏡検査、歯科衛生士が参加する機会が増加している栄養サポートチーム(NST: Nutrition Support Team)について理解する) [課題(復習)]これまで本学で学んだ摂食嚥下リハビリテーションの資料・講義内容を復習する。チームアプローチの意義について復習する(6h)					
8	リハビリテーション医学(運動療法の理論を解説しながら、本講義の振り返りを行う) [課題(復習)]授業で学んだ全体の内容を振り返り、まとめを行う(6h)					
時間外での学修	授業内容で示した[課題(復習)]の修得状況確認のため、毎回講義の初めに小テストを実施し理解度を確認します。また、講義内では簡単な運動を行うことで自身の心身機能を変化させる取り組みを行います。課題は講義内で提示します。簡単な運動でも目的を持って主体的に取り組むことで身体機能に影響を与えることを実感できることが運動療法を理解することの第一歩です。また、その結果の記録についても講義内で確認します。					
受講学生へのメッセージ	リハビリテーションの知識を学ぶのみでなく、臨床現場で実践されていることを実演することで理解を深めます。オフィスアワーは講義日の非常勤講師控室で16時～16時20分です。					

【4H3S404】歯周病予防技術法Ⅲ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	実習	45時間	
教員	今井 藍子・川島 智子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯周病予防技術法Ⅰに続いた実習科目です。キュレットスケーラーを用い、歯肉縁下の歯石除去法の技術を修得します。 PMTC・歯面清掃器の使用目的、使用方法を修得します。					
実務家教員	川島：歯科医院歯科衛生士・5年 今井：歯科医院歯科衛生士・10年					
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を学び、基礎実習で歯石除去技術を身につけ、相互実習で口腔内に応用します。					
到達目標	知識・理解	スケーリング・ルートプレーニング（SRP）に使用するスケーラーの種類と特徴が説明できる。 歯周治療におけるスケーリング・ルートプレーニングの概要が説明できる。			◎	
	思考・判断・表現	実習（歯石除去・PMTC・歯面清掃器）の術式、内容を示すことができる			△	
	技能	スケーラーのシャープニング方法を理解し実施する SRPの部位別操作法を理解し、マネキンに対し基本操作を実施する PMTC・歯面清掃器の術式・使用方法を理解し実施する			◎	
	関心・意欲・態度	主体的に知識・技能の修得に取り組むことができる			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験	40	-	40	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	40	10	40	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験・筆記試験ともに、それぞれ6割以上を合格とする。 受講態度は身だしなみ・忘れもの等とします。					
ICT活用	ICTを利用した自主学支援 学生ポータルを利用し、質問等を受け付けます。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行います。 レポートのコメントを返します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42839-9 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42839-9 1年次に購入済					
参考書・教材	その他の資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	シックルスケーラーの復習：シックルスケーラーの部位別操作法とシャープニングの復習する。 [課題（復習）]シックルスケーラーの部位別操作法を復習する。（1h）					
2	キュレットスケーラーの基礎知識：キュレットスケーラーの特徴を理解する。 [課題（復習）]キュレットスケーラーの基礎知識の復習をする。（1h）					
3	キュレットのマネキン実習①：2回目の課題を確認。キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを実習する。 [課題（復習）]前歯のスケーリングの操作の復習をする。（1h）					
4	キュレットのマネキン実習②：3回目の課題を確認。キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを実習する。 [課題（復習）]下顎臼歯のスケーリングの操作の復習をする。（1h）					
5	キュレットのマネキン実習③：4回目の課題を確認。キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを実習する。 [課題（復習）]上顎臼歯のスケーリングの操作の復習をする。（1h）					
6	実技まとめ：5回目の課題を確認。キュレットスケーラーの基本操作を復習する。 [課題（復習）]キュレットスケーラーの基本操作を復習する。（1h）					
7	実技チェック（マネキンを使用）：キュレットスケーラーの基本操作を試験形式で確認する。					
8	授業内容・目標:相互実習①：キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを相互に実習する [課題（復習）]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる（1h）					
9	授業内容・目標:相互実習②：8回目の課題の確認。キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを相互に実習する [課題（復習）]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる（1h）					
10	授業内容・目標:相互実習③：9回目の課題の確認。キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを相互に実習する [課題（復習）]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる（1h）					
11	PMTC・歯面清掃器・キュレットアドバンス：10回目の課題の確認。PMTC・歯面清掃器の使用目的・使用方法を理解する。キュレットスケーラーの応用を理解する。手用スケーリングの知識・基本技術の総復習をする。 [課題（復習）]歯周治療について、PMTC・歯面清掃器の使用目的・使用方法、キュレットスケーラー応用の復習をする。（1h）					
12	PMTC・歯面清掃器マネキン実習：PMTC・歯面清掃器を用いてロールプレイ実習をする。 [課題（復習）]PMTC・歯面清掃器の術式にまとめる。（1h）					
13	実技再指導（マネキンを使用）：手用スケーリングの知識・基本技術の総復習をする。					
時間外での学修	口腔内で鋭利な器具を使用するため、確実な操作が必要であり、一定以上の知識・技術レベルが要求されます。授業時間以外にも自ら練習をして、技術を向上させてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：11時間】					

受講学生への
メッセージ

本科目は、回数を経るごとに知識学修→基礎実習と進んでいきます。授業を欠席すると次のステップに進むために大変な努力を要します。体調管理を徹底し、欠席をしないようにしてください。
オフィスアワーは研究室で木曜日の5限です。

【4H3S206】う蝕予防処置法Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	飯岡 美幸・松川 千夏					
資格・制限等	特になし					
授業内容	う蝕予防処置法とは、法律で歯科医師と歯科衛生士のみ許されている専門的技術です。この授業は、「う蝕予防処置法Ⅰ」で学んだう蝕のプロセス、リスク、プロフェッショナルケアの重要性を理解したうえで、う蝕を予防するための具体的方法を学び、患者指導を含めたう蝕予防処置法の知識、技能を修得することをねらいとしています。					
実務家教員	飯岡：歯科医院歯科衛生士9年 松川：歯科医院・保健センター他歯科衛生士20年					
授業方法	演習・実習が中心となります。各項目において、講義で知識を修得したのち、基礎実習、グループでの相互実習を行い理解を深めます。					
到達目標	知識・理解	う蝕予防処置法の種類とその作用機序、効果、適応症、禁忌症を説明できる。各種う蝕予防処置法の特徴を理解し、安全に応用することができる。			◎	
	技能	各種う蝕予防処置法の術前説明と術後指導を述べ、業務記録を書くことができる。			△	
	関心・意欲・態度	う蝕予防処置法の知識修得のために、積極的に学習に取り組むことができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験	70	-	-	-	70
	復習テスト	10	-	-	-	10
	レポート	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	80	-	10	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み状況、提出物の提出期限、身だしなみ、忘れ物、実習当番参加状況等で評価します。フィードバックとして理解度確認テストを実施し、解答の解説を行います。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
I C T活用	学生ポータルを質問等に活用する。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』医歯薬出版(8,360円)ISBN:978-4-263-42863-4 『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」第3版』医歯薬出版(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士のための齶蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版株式会社(3,960円)ISBN:978-4-263-42241-0					
参考書・教材	その他参考資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業内容についてのガイダンス 患者説明用チャート作成について [課題(復習)]患者説明用チャート作成に必要な資料を収集する。(1h)					
2	フッ化物集団応用法：集団にフッ化物を応用する方法として、イオン導入法、洗口法、各個法、チーム法、(フロー式・ロータリー式)を理解する。イオン導入法・洗口法の実習をする。 [課題(復習)]フッ化物の集団応用と、イオン導入法、洗口法の特徴と注意点をまとめる(2h)					
3	フッ化ジアンミン銀応用法：フッ化ジアンミン銀塗布の基礎知識を理解する。フッ化ジアンミン銀応用法の実習をする。 フッ化物歯面塗布法①：フッ化物歯面塗布法の基礎知識(術式と患者指導)を理解する。 [課題(復習)]フッ化ジアンミン銀塗布法の特徴と手順、患者への注意点をまとめる。 フッ化物歯面塗布法について復習する。(2h)					
4	フッ化物歯面塗布法②：フッ化物歯面塗布法のうち、綿球法、歯ブラシ法を相互に実習する。 [課題(復習)]フッ化物歯面塗布法(綿球・歯ブラシ法)の特徴、手順、注意点をまとめる。(2h)					
5	フッ化物歯面塗布法③：フッ化物歯面塗布法のうち、トレー法、マウスピース法を相互に実習する。 [課題(復習)]フッ化物歯面塗布法(トレー・マウスピース法)の特徴、手順、注意点をまとめる。(2h)					
6	小窩裂溝充填塞法①：各種小窩裂溝充填塞法の基礎知識と術式を理解し、模型上で実習する。 [課題(復習)]小窩裂溝充填塞法の特徴と術式をまとめる。(2h)					
7	小窩裂溝充填塞法②：診療補助実習Ⅱで修得したラバーダム防湿を行い、レジン系小窩裂溝充填塞材を使用し相互で実習をする。 課題(復習)小窩裂溝充填塞法の手順を復習する(2h)					
8	小窩裂溝充填塞法②：セメント系小窩裂溝充填塞材の基礎知識と術式を理解し、模型上で実習する。 まとめ：授業外の課題も参考にしながら、各種う蝕予防処置法の復習、まとめを行う。 [課題(復習)]小窩裂溝充填塞法の特徴と術式をまとめる(2h)					
時間外での学修	『う蝕予防処置法Ⅰ』の基礎知識を十分理解したうえでの受講が必要です。実習には、「診療補助実習Ⅱ」で学ぶラバーダム防湿を行うものがあります。再度、相互実習前に練習し、操作できるよう復習してください。[課題]は授業の到達目標達成に必要な内容です。()の標準学習時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	1年次で履修した「口腔衛生学」「う蝕予防処置法Ⅰ」に関連しています。復習をしっかり行い、この授業に臨んでください。また欠席しないよう、自己の健康管理を行ってください。 オフィスアワーは木曜日5限目、G404です。					

【4H3A208】口腔健康管理演習		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	飯岡 美幸・久本 たき子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科衛生士が、障がい者、要介護者及び入院患者へのQOL向上のために口腔健康管理を実践することは重要です。口腔健康管理は、「口腔衛生管理」と「口腔機能管理」に大別されます。その「口腔衛生管理」は、誤嚥性肺炎の予防にもつながります。前期で修得した基本的な介護技術や摂食嚥下リハビリテーションの知識・技術を活かし、各症例に応じた口腔衛生管理の基礎技術や基礎知識を修得します。					
実務家教員	飯岡：歯科医院歯科衛生士・9年 久本：歯科医院・口腔保健センター歯科衛生士・6年					
授業方法	口腔衛生管理に関する相互実習と事例検討の演習を行い、歯科衛生診断シートの作成を行います。					
到達目標	知識・理解	1. 口腔衛生管理に使用する口腔清掃用品の種類と用途を述べる。 2. 義歯の清掃と取扱いについて、注意事項を述べる。 3. 歯科衛生臨床アセスメントが説明できる。 4. 入院患者における歯科衛生診断シートを作成できる。			◎	
	技能	相互実習を行い、口腔衛生管理の基本の手技・操作を修得できる。			△	
	関心・意欲・態度	自己の体調管理を行い、学修に取り組むことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	70	-	-	-	70
	実技試験	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	15	15
	小テスト	5	-	-	-	5
	合計(点)	75	-	10	15	100
評価の特記事項	受講態度は実習当番の参加、忘れ物や身だしなみ、提出物の提出状況を含みます。フィードバックとして理解度確認テストを実施し、解答を解説します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
I C T活用	学生ポータルを用いて質問等に対応します。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』医歯薬出版株式会社(2,860円)ISBN:978-4-263-42835-1 『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』医歯薬出版株式会社(4,180円)ISBN:978-4-263-42264-9					
参考書・教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版) 医歯薬出版株式会社 (1年次購入済み) 準備物は毎回掲示します。必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	口腔健康管理の概念について学ぶ。口腔衛生管理に使用する口腔清掃用品の理解および改良歯ブラシを製作する。 [課題(復習)]口腔健康管理の意義と目的をまとめ、口腔清掃用品の種類について復習する。(2h)					
2	1回目の課題の成果を確認するため小テストを実施する。 口腔衛生管理相互実習(1):介助磨き法の基本技術を相互で実習する。 [課題(復習)]介助磨き法の基本技術を復習し、相互実習から術者としての改善点を挙げる。(2h)					
3	口腔衛生管理マネキン実習:スポンジブラシ法、各種義歯着脱法の手技の修得 口腔衛生管理相互実習(2):車椅子上のブラッシングと吸引付き歯ブラシの清掃法を相互で実習する。 [課題(復習)]口腔衛生管理の基本技術を復習し、相互実習から術者としての改善点を挙げる。(2h)					
4	事例検討①在宅における口腔衛生管理 事例検討②特別養護老人ホームにおける口腔衛生管理 各事例について講義と演習を行い理解を深める。 [課題(復習)]2事例の口腔衛生管理について復習しまとめる。(2h)					
5	2~4回目の課題の成果を確認するため小テストを実施する。 事例検討③一般病棟における口腔衛生管理 事例検討④I C Uにおける口腔衛生管理 各事例について講義を行い理解を深める。 外部講師による講義・実習 [課題(復習)]各事例と口腔乾燥について復習し、まとめる。(2h)					
6	5回目の課題の成果を確認するため小テストを実施する。 口腔衛生管理相互実習(3):I C U患者を想定した相互実習を行い、口腔衛生管理の手技を修得する。 [課題(復習)]I C Uにおける口腔衛生管理の基本技術を復習し、相互実習から術者としての改善点を挙げる。(2h)					
7	歯科衛生過程について学び、歯科衛生診断シートの作成をする。(演習) スポンジブラシ清掃法実技チェック [課題(予習)]スポンジブラシ清掃法の確認を行う。(1h) [課題(復習)]歯科衛生過程について復習し、記載方法について確認する。(1h)					
8	6~7回目の課題の成果を確認するため小テストを実施する。 歯科衛生診断シートの記載方法の留意点を確認し、歯科衛生診断シートの修正をする。 スポンジブラシ清掃法の実技チェックの講評をする。 [課題(復習)]歯科衛生診断方法を復習する。(1h)					
時間外での学修	口腔衛生管理の相互実習では、術手順の復習を行ってください。歯科衛生診断シート作成では、特に介護保険制度のしくみや歯科衛生過程について理解を深める学修をしましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】					
受講学生へのメッセージ	対象者とコミュニケーションをとることにより、対象者の情報量が増加することを念頭におきコミュニケーション能力の向上に努めるようにしましょう。 オフィスアワー:飯岡:木曜日5時限G404、久本:木曜日5時限G304です。					

【4H3A409】摂食嚥下リハビリテーション学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	選択	実習	45時間	
教員	久本 たき子・飯岡 美幸・小原 勝					
資格・制限等	特になし					
授業内容	口腔は単に食べるだけではなく、コミュニケーションなど人にとって欠かせない器官です。障がい者や高齢者などQOLを向上するためには、口腔機能の維持・向上はかせませません。歯科衛生士が行う口腔健康管理は、単に口腔清掃だけではなく口腔機能向上のための訓練を行っていく必要があります。授業の前半では、摂食嚥下障害の特性やスクリーニング法、訓練方法の基礎知識を学び、基本的技術を修得します。後半では、臨床における症例から学び深めることを目指します。					
実務家教員						
授業方法	講義、グループワーク、基礎実習など授業内容の項目に従っていきます。また、必要に応じて、学生ポータルやメールで質問等を受け付けます。					
到達目標	知識・理解	1. 摂食嚥下障害の原因や分類を述べる。 2. 摂食嚥下に必要な器官の解剖学的名称を確認し、摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 3. 摂食嚥下障害のスクリーニング法が説明できる。 4. 間接訓練と直接訓練方法を相互実習を通して学ぶ。 5. 介護予防プラン（口腔機能の向上）の作成ができる。			◎	
	技能	摂食嚥下機能のスクリーニング法を実施する。			△	
	関心・意欲・態度	自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験(久本)	65	-	-	-	65
	課題レポート(小原)	10	-	-	-	10
	小テスト(久本)	5	-	-	-	5
	実技試験(久本・飯岡)	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	80	-	10	10	100	
評価の特記事項	複数の教員により、観点別に評価を行います。小テストを実施するので、時間外学修を行い理解を深めていきます。受講態度は、授業への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については次回の授業で小テストを実施し、説明および確認をします。課題レポートについても、反転授業で使用します。					
テキスト	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』公益社団法人 日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版株式会社(4,180円)ISBN:978-4-263-42264-9 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社(2,860円)ISBN:978-4-263-42835-1					
参考書・教材	授業資料は、その都度配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(久本・飯岡)	＜総論：歯科衛生士の業務としての摂食機能療法＞ 摂食嚥下のメカニズムを知り、口腔解剖学の知識を確認するため、課題プリントを行う。 [課題(復習)]摂食嚥下のメカニズムと口腔解剖学についてまとめる。(0.5h)					
2(久本・飯岡)	＜摂食嚥下にかかわる検査＞ 摂食嚥下障害の病態及び摂食嚥下機能評価の検査を学び、スクリーニング法の課題を行う。 さらに評価基準を理解する。 [課題(復習)]スクリーニング方法とその評価基準をまとめる。(0.5h)					
3(久本・飯岡)	＜摂食嚥下における基礎(間接)訓練＞ 基礎訓練法1：準備期・口腔期に作用する訓練を学び、課題を行う。 [課題(復習)]基礎訓練法(準備期・口腔期)の基本訓練を復習する。(0.5h)					
4(久本・飯岡)	＜摂食嚥下における基礎(間接)訓練＞ 基礎訓練法2 咽頭期に作用する訓練や呼吸訓練法を学び、課題を行う。 授業時間外の課題を参考にしながら、技術面の自己評価を行う。 [課題(復習)]咽頭期に作用する基礎訓練法や呼吸訓練法を復習する。(0.5h)					
5(久本・飯岡)	＜介護予防プラン作成＞ 介護予防における口腔機能向上のアセスメントについて学ぶ。 症例のアセスメント結果より介護予防プランを作成する。その演習から、問題解決学習を行う。 [課題(復習)]口腔機能向上のアセスメント項目についてまとめる。(0.5h)					
6(久本・飯岡)	＜摂食嚥下における直接訓練＞ 直接訓練の種類と方法を学び、相互実習を行う。 [課題(復習)]直接訓練の種類と方法についてまとめる。(0.5h)					
7(久本・飯岡)	スクリーニング法の実技チェックを行い、自己の技術力を確認する。 演習として、「在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション」の症例を用い、不明な語句を調べ自己の獲得した知識を確認する。 [課題(復習)]実技チェックで行った技術不足を確認し、改善後再チェックを受ける。 1回～6回までの復習を行い、知識・技術についてまとめる。(1h)					
8(久本・飯岡)	前回の授業で行った「在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション」の症例用いた演習より、歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションについて理解を深める。 これまでの学外実習の課題(復習)について、振り返る。 [課題(復習)]これまでの授業の復習を行い、重要事項をまとめる。(1h)					
9(小原)	摂食嚥下に関する知識の再確認とステージⅡ移送ならびに口腔管理を学ぶ(第2版 p 24～33、復習 p 34～55) [課題(復習)]神経内科、脳外科、口腔外科疾患が摂食嚥下障害にどのように影響するか復習する。(0.5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10(小原)	<p><症例検討1> 脳神経外科、神経内科分野（第2版 p 84～134、227～242）：病態別摂食嚥下障害について学ぶ [課題（復習）]高齢者や脳血管疾患における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)</p>
11(小原)	<p><症例検討2> 高齢者、神経内科分野（第2版 p 68～83、167～184）：実際の症例について咀嚼機能、嚥下障害スクリーニング法、評価、訓練法について学ぶ [課題（復習）]発達障がい児における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)</p>
12(小原)	<p>9回～11回までの課題を確認する。 <症例検討3> 小児分野（第2版 p 56～67、124～135、150～166）：実際の症例について小児嚥下障害スクリーニング法、評価、訓練法について学ぶ [復習（復習）]小児における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)</p>
時間外での学修	<p>1年時に学ぶ解剖学や生理学などの知識が必要になります。また、知識確認のため小テストを随時行います。復習をしっかり行い定期試験に臨んでください。[課題]は授業の到達目標に達成に必要な内容ですので、()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：6時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>選択科目ですが、後期開講の「口腔健康管理演習」と関連性のある科目であり、臨床・臨地実習、国家試験受験に必要な内容が多く含まれるので受講しましょう。これからの歯科衛生士に必要な知識・技術です。 オフィスアワーは、久本：木曜日5時限、研究室（G304：G号館3F）、飯岡：木曜日5時限、研究室（G404：G号館4F）、小原：木曜日5時限、研究室（G205：G号館2F）</p>

【4H4S203】保健指導法Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	川島 智子・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科保健指導とは、個人を対象としてその人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に促させるための、専門的な立場からの助言や援助をいいます。歯科衛生過程の考え方を基に、対象者のニーズに合った歯科保健指導をするための、情報収集・情報処理、問題点の明確化、介入方法の計画、実施などを相互実習やグループワークを通して行います。また、実習を通して手技やコミュニケーション力を養うことを目的としています。「歯科保健指導基礎」「保健指導法Ⅰ」で学んだ知識や技術を基盤として相互に実習を行うことで理解を深めます。3年生前期で、歯科衛生過程を学ぶ上での入り口となる授業です。					
実務家教員	今井藍子：歯科医院歯科衛生士10年 川島智子：歯科医院歯科衛生士5年					
授業方法	2人1組での相互実習(ロールプレイ)、もしくはグループディスカッションで授業を進めていきます。情報収集を行った結果を整理・分析して問題点を読み取っていきます。診査表や分析結果などの記録用紙は提出していただきます。保健指導チャートについては授業時間外での学修を中心に進めていきます。					
到達目標	知識・理解	医療面接の目的を説明できる 各種口腔内診査の方法や目的が説明できる 症例から情報の整理・分類、問題点の明確化、介入計画の立案ができる			◎	
	思考・判断・表現	医療面接で患者の主観的情報を読み取ることができる 対象者の生活習慣と生活環境を把握できる 対象者の各種口腔内診査の結果から評価ができる 情報収集で得られた内容から対象者に合わせた介入計画・実施ができる 歯科衛生過程のすべてのプロセスで書面化して記録することができる それぞれの対象者についてグループでディスカッションができる 保健指導のためのチャートを系統立てて作成することができる インターネットを活用して保健指導チャートに必要な情報を収集することができる			○	
	技能	各種口腔内診査や口腔清掃状態の検査ができる 対象者に口腔内診査の結果や口腔衛生状態を説明できる 対象者に各種清掃用具の選択と使用方法の指導ができる			△	
	関心・意欲・態度	保健指導チャート作成に対して能動的に取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学修や課題を積極的に行うことができる			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	10	10	-	20
	課題提出(保健指導チャート)	-	15	-	5	20
	レポート	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	25	10	15	100
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けるが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。保健指導チャート提出は単位取得のためには必須条件です。対象者に説明するためのツールとして工夫された点、提出期限が守られたかなどについて評価します。筆記試験では、歯科衛生過程、各種検査・指数、歯周病に関する知識などについて評価します。レポートは、評価は自分の考えを表現できているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られたかなどについて評価します。実技試験では、相互実習時に医療面接時や保健指導時の術者の態度、清潔不潔に対する配慮、技術の正確さや患者への配慮などを評価します。受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ・忘れ物等などの状況を評価します。					
ICT活用	保健指導チャート作成のためのインターネットを活用して情報収集します。集めた情報をもとに、保健指導チャートを作成していきます。					
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)』医歯薬出版株式会社(9,020円)ISBN:978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学(第3版)』医歯薬出版株式会社(6,160円)ISBN:978-4-263-42862-7 『歯科衛生士臨床のためのQuint Study Club 診査関連編1 しっかり測定できる! 歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円)ISBN:978-4-7812-0039-2 『最新歯科衛生士教本 歯周病学(第2版)』医歯薬出版株式会社(3,850円)ISBN:978-4-263-42839-9					
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	保健指導法Ⅰの授業の概要、保健指導チャート作成について理解する。 [課題(復習)]インターネットを活用して、歯周病予防を目的とした保健指導チャートを作成するために必要な図や写真などを集める。(2h)					
第2回	歯科衛生過程の概要、保健指導のために必要な検査項目と観察方法、観察ポイントについて学修する。 症例検討①：症例患者の情報の整理・分類をする。※グループワーク [課題(復習)]インターネットを活用して、歯周病予防を目的とした保健指導チャートを作成するために必要な図や写真などを集める。(2h)					
第3回	症例検討②：症例患者の指導計画を立案する。※グループワーク次回相互実習に向けて、検査項目と観察方法、観察ポイントについて復習する。※ロールプレイ [課題(復習)]次回相互実習に向けて、実習手順と観察ポイント、医療面接時の術者の対応や質問項目について学修する。相互実習時の感染予防対策について学修する(2h)					
第4回	情報収集①：実際の患者に対して、医療面接と口腔内診査を行い歯科保健指導に必要な情報収集を行う。 ※相互実習 [課題(復習)]相互実習後の術者評価(自己評価)と反省を記録する。口腔内診査表をまとめる。(2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
第5回	情報収集②：実際の患者に対して、医療面接と口腔内診査を行い歯科保健指導に必要な情報収集を行う。 ※相互実習 [課題(復習)]相互実習後の術者評価(自己評価)と反省を記録する。口腔内診査表をまとめる。SデータとOデータに分類する(2h)
第6回	第2～5回の課題の確認をする。 情報の分析：整理された情報をもとに、対象者へのブラッシングに関する指導案を作成する。※グループワーク 各種ブラッシング方法、補助清掃用具の使用方法について復習する。 [課題(復習)]次回相互実習に向けて、実習手順、医療面接時の術者の対応や質問項目、保健指導内容について学修する。相互実習時の感染予防対策について学修する(2h)
第7回	歯科衛生介入：実際の患者に対して、指導案に基づいて医療面接と歯科保健指導を行う。※相互実習 [課題(復習)]相互実習後の術者評価(自己評価)と反省を記録する。SOAP形式で業務記録を作成する。(2h)
第8回	業務記録作成：第7回で作成した業務記録の作成方法や内容について確認する。第1～7回のまとめを行う。 [課題(復習)]筆記試験に向けて、第1～8回のまとめを行う。(2h)
時間外での学修	正確に口腔内の状況を判断できる力を身に着けるようにしてください。グループ演習や相互実習が中心となりますので、各自責任をもって相互実習に向けて準備・課題をしっかりと行ってください。また、相互実習時における感染予防対策に関する注意事項の確認と準備を徹底して行ってください。保健指導用チャートは、時間外での作成が主となります。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：16時間]
受講学生へのメッセージ	課題は指定された日時に提出してください。保健指導チャートの提出は単位取得のための必須要件です。オフィスアワーはG405で木曜日5限目です。

【4H4A205】 発達口腔保健演習		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	久本 たき子・松川 千夏					
資格・制限等	特になし					
授業内容	1年後期で行った発達口腔保健学では、妊産婦期～幼児期までのステージについて演習を通し歯科保健対策を学修しました。本講では、学齢期、青年期、成人期、老年期の特徴や口腔内状況を理解し、対象者に応じた歯科保健指導が行えるように学修を進めていきます。また、各ライフステージの歯科保健対策における歯科衛生介入について考えていきます。					
実務家教員	久本：歯科医院・口腔保健センター歯科衛生士・6年 松川：歯科医院・保健センター他歯科衛生士・20年					
授業方法	グループ討論や個別で考える演習を取り入れ、授業を展開していきます。必要に応じて、質問等がある場合、学生ポータルやメールで受け付けます。					
到達目標	知識・理解	口腔の健康支援ができるように、学齢期・青年期・成人期・老年期等の特徴や口腔内を理解し、歯科保健対策の知識を修得する。			◎	
	思考・判断・表現	課題レポートについて、提示された内容を思考し作成できる。			△	
	関心・意欲・態度	毎回の授業態度を振り返り、医療人として自己の体調管理に留意し、レポートが指示通り提出できる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験(筆記試験)	75	-	-	-	75
	小テスト	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	8	8
	課題及び演習レポート内容	-	12	-	-	12
合計(点)	80	12	-	8	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修取組、レポート提出等を含みます。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、次回以降に小テストを実施し知識の確認を行います。また、レポート課題は、次回の授業で活用し知識を深めていきます。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版(2,860円)ISBN:978-4-263-42835-1 『7訂食品80キロカロリーミニガイド』香川明夫監修 女子栄養大学出版部(990円)ISBN:978-4-7895-0522-2					
参考書・教材	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』『歯と口の健康百科』『栄養と代謝』医歯薬出版、『食品成分表2020』女子栄養大学出版部 *以上のテキストは、1年次に購入済みです。準備するテキスト・準備物等は、毎回掲示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ライフステージにおける歯科衛生介入 戦後の健康づくり対策と地域歯科保健の変遷と学齢期の一般的特徴と口腔の特徴を学ぶ。 [課題(復習)]戦後の健康づくり対策と地域歯科保健の変遷を復習する。レポート課題①を行う。(1h)					
2	ライフステージにおける歯科衛生介入<学齢期・青年期> 学齢期の健康と栄養に関する問題点を提示し、特に歯科疾患と食生活指導の関連性を考える。 青年期の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ。 [課題(復習)]学齢期・青年期の特徴と歯科保健指導について復習する。レポート課題②を行う。(1h)					
3	ライフステージにおける歯科衛生介入<成人期①> 成人期の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導および禁煙支援について学ぶ。また、受講者の食事摂取状況から自己の栄養管理について問題解決学習を行う。 [課題(復習)]成人期の特徴と歯科保健指導を復習する。レポート課題③を行う。(2h)					
4	ライフステージにおける歯科衛生介入<成人期②> 生活習慣病と歯科疾患の関連について学ぶ。有病者(糖尿病)の病態を知り、その症例から歯科保健指導に関する問題解決学習を行う。 [課題(復習)]生活習慣病(糖尿病)の病態について復習する。(2h)					
5	ライフステージにおける歯科衛生介入<成人期③> 歯周基本治療について再度学び、成人期の臨床症例から歯科衛生介入について考える。 [課題(復習)]歯周基本治療について復習する。(2h)					
6	ライフステージにおける歯科衛生介入<老年期①> 老年期・障害者・要介護者の一般的特徴と口腔の特徴および食生活の特徴を学ぶ。 [課題(復習)]障害者・要介護者の一般的特徴と口腔の特徴、食生活の特徴を復習する。					
7	ライフステージにおける歯科衛生介入<学齢期・老年期②> ①3年生の小学校実習発表を参観して集団指導のポイントを確認する。 ②外部講師による「義歯の取扱いと義歯洗浄剤・安定剤の特徴と取り扱いの注意点」を学ぶ。 [課題(復習)]義歯の取扱いと洗浄剤の種類についてまとめる。(2h)					
8	ライフステージにおける歯科衛生介入 レポート課題③に関するコメントを行い、これまで学んだ各ステージの特徴と歯科保健指導を復習する。高齢者に対する口腔のケアの症例より、問題解決学習を行う。また、小集団指導が出来るように、レクレーション原稿を作成する。これまでの講義内容の重要項目を確認する。 [課題(復習)]これまでの授業内容を全て復習し、知識を整理する。(2h)					
時間外での学修	レポート課題：①「3日間の食事記録」と②「学齢期の間食の栄養計算」③「健康増進法一部改正と国民健康栄養調査(H30)結果について」を課します。そのレポート課題から演習を行いますので提出期限を守りましょう。[課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への
メッセージ

口腔から全身をとらえ、対象者に健康づくりを支援していく立場になることを理解してください。また、演習時はグループで取り組むこともあるため、主体的に授業に臨みましょう。フィスアワーは、久本：研究室（G304：G号館3F）木曜日5時限、松川：研究室（G305：G号館3F）木曜日5時限です。

ま
オ

【4H4S406】地域歯科保健活動 I		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	川島 智子・松川 千夏						
資格・制限等	特になし						
授業内容	地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くことは、口腔の健康の維持・増進のためにはきわめて重要なことです。この授業では『ヘルスプロモーション』理論を理解します。さらに、子育てサロンや地域の高校生への保健指導、小学校への健康教育実施計画立案をとおして、地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くために必要な知識、技能の修得を目的としています。						
実務家教員	川島智子：歯科医院歯科衛生士5年 松川千夏：歯科医院・保健センター他歯科衛生士20年						
授業方法	実習とグループワークが中心となります。グループワークでは、KJ法などを用いて学生同士で積極的に意見交換をしながら、コミュニケーション力を高めます。本学で開催される「子育てサロン」へ実習に行きます。						
到達目標	知識・理解	集団を対象に健康管理について説明できる 歯科健康教育における歯科衛生士の役割、関連法規を説明できる			◎		
	思考・判断・表現	乳幼児・児童・生徒の実態を把握し、歯科健康教育計画が立案できる			○		
	技能	乳幼児の保護者を対象に、口腔ケアの方法が説明できる			△		
	関心・意欲・態度	演習や実習（現場）への積極的参加と自学自習ができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	課題提出		-	10	-	-	10
	演習(グループ演習)		-	10	-	5	15
	実習(子育てサロン)		-	-	5	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		60	20	5	15	100	
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けますが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。課題提出は、ライフステージ毎に課される歯科健康教育計画の内容とについて評価します。 演習参加度は、乳幼児の保護者への歯科保健指導に使用する媒体作製、小学校実習に向けての原稿・媒体作製についての内容とその際の演習への参加度について評価します。 受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ・忘れ物等などの状況を評価します。						
I C T 活用	ライフステージ毎の特徴を把握するために、授業内でインターネットを活用して情報収集を行います。						
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。						
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN: 978-4-263-42863-4 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ1 保健生態学(第3版)』医歯薬出版株式会社(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7 1年次に購入済み						
参考書・教材	『新版 家族のための 歯と口の健口百科』医歯薬出版株式会社						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科健康教育とは：地域歯科保健活動における歯科健康教育とは [課題(準備)]乳幼児やその保護者の特性やニーズに関する情報を収集する(1h)						
2	乳幼児期(1)：歯科衛生アセスメント①(情報収集、子育てサロン聞き取り) 乳幼児やその保護者の情報収集と整理・分析をおこなう						
3	乳幼児期(2)：歯科衛生アセスメント②(情報処理)、歯科衛生診断(問題の明確化) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする						
4	乳幼児期(3)：歯科衛生計画立案 問題点から目標の設定、介入方法の決定、指導案作成をする [課題(復習)]乳幼児の口腔内の特徴や仕上げ磨きの指導ポイントなどを確認しておく(1h)						
5	乳幼児期(4)：課題の確認・教育原稿・媒体作製 歯科衛生介入に必要な媒体を作製する						
6	学校歯科保健とは(歯科保健問題・学校歯科健康診断) 高校生への歯科保健指導、小学校歯科健康教育に向けての情報収集をおこなう [課題(準備)]児童や生徒の特性やニーズに関連する情報を収集してくる(1h)						
7	青年期(1)：歯科衛生アセスメント・問題の明確化・歯科衛生計画立案(高校歯科保健指導実習) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする 問題点から目標の設定、歯科衛生介入方法の決定をする [課題(準備)]高校生の特性やニーズに関連する情報を収集してくる(1h)						
8	青年期(2)：課題の確認・教育原稿・媒体作製(高校歯科保健指導実習) 高校生に対する介入計画から指導案を作成する						
9	学齢期(1)：課題の確認、歯科衛生アセスメント(情報収集) 児童の情報収集と整理・分析をおこなう						
10	学齢期(2)：歯科衛生診断(問題の明確化) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする *子育てサロン実習(1)						
11	学齢期(3)：歯科衛生計画立案(児童・生徒に対する問題点から歯科衛生計画を立案する) 問題点から目標の設定、歯科衛生介入方法の決定をする *子育てサロン実習(2)						
12	学齢期(4)：教育原稿・媒体作製 1 小学校歯科健康教育に向けて介入計画から指導案を作成する *子育てサロン実習(3)						
時間外での学修	学内や地域での歯科保健活動を実施するため多職種との連携が必要となります。多職種についての知識を深めておきましょう。時間外を活用し、健康教育のための媒体作製を行ってください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：4時間】						

受講学生への
メッセージ

地域歯科保健活動を実践するため、演習には積極的に参加し自らの知識・技能の向上を目指すことを期待
しています。オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。

【4H5S204】診療補助実習 I		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	飯岡 美幸・関谷 智子・藤塚 末子・海原 康孝					
資格・制限等	特になし					
授業内容	日常の臨床において、歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークは、診療を円滑に行っていくためにも必要不可欠なものです。そのアシスタントワークの中でも、歯科材料の取り扱い、基本的性質の理解と適正な取り扱い方法を修得することが重要となります。そのためこの授業では、歯科材料に対する知識を深めると同時にその取り扱い技術を磨き、様々な状況に合わせた適切な対応を学びます。					
実務家教員	飯岡：歯科医院歯科衛生士・9年間 海原：病院歯科医師・27年間 藤塚：歯科医院他歯科衛生士5年間					
授業方法	講義と示説で診療の流れや使用器材の基礎知識、器材の名称、用途、使用法を理解し、マネキンでの相互実習（ロールプレイ）で手技を修得します。					
到達目標	知識・理解	それぞれの治療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備取り扱い方法が説明できる。診療時における共同作業を行う上で必要な知識・技術・態度（患者への配慮）などを修得し、適切に判断し適応できるようになる。			◎	
	思考・判断・表現	学修内容を臨床と結びつけて考え、様々な場面で適切に対応するための思考や判断をすることができる。			△	
	技能	各材料・器材の名称・用途を説明し、正しい取り扱いができ、スムーズに診療時の共同動作ができるようになる。			◎	
	関心・意欲・態度	授業への積極参加と自学自修ができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	35	-	-	-	35
	実技試験	-	-	45	-	45
	受講態度	-	-	-	10	10
	復習テスト	5	-	-	-	5
	レポート	-	5	-	-	5
	合計(点)	40	5	45	10	100
評価の特記事項	知識・理解、技能共に各6割以上で単位取得となります。 受講態度は学修への取り組み、実習当番の参加状況、提出物の提出期限、身だしなみ、忘れ物の有無で評価します。フィードバックとして確認テストを実施し、解答の解説を行います。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。					
I C T活用	学生ポータルを質問等に活用します。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版(3,080円)ISBN:978-4-263-42828-3 『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』医歯薬出版(4,620円)ISBN:978-4-263-42820-7 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版(3,850円)ISBN:978-4-263-42851-1 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』医歯薬出版(3,520円)ISBN:978-4-263-42850-4 『咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版』医歯薬出版(3,740円)ISBN:978-4263-42864-1					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	A G：歯の切削法と切削具：窩洞形成に使用される切削具の種類と名称、特徴について学修する。 成形歯冠修復材総論・隔壁調整について：成形歯冠修復材の種類、性質と隔壁調整について学修する。 [課題(復習)]切削具・成形歯冠修復材の種類、性質、名称、特徴をまとめる。種隔壁調整の用途と、マトリックスバンドとリテーナーの使用法についてまとめる。(2h) B G：X線撮影法実習 X線撮影方法の口内法を相互で実習し、手技を習得する。 [課題(復習)]エックス線撮影の手順をまとめ、撮影したエックス線写真の評価をする。(2h)					
2	A G：X線撮影法実習 X線撮影方法の口内法を相互で実習し、手技を習得する。 [課題(復習)]エックス線撮影の手順をまとめ、撮影したエックス線写真の評価をする。(2h) B G：歯の切削法と切削具：窩洞形成に使用される切削具の種類と名称、特徴について学修する。 成形歯冠修復材総論・隔壁調整について：成形歯冠修復材の種類、性質と隔壁調整について学修する。 [課題(復習)]切削具・成形歯冠修復材の種類、性質、名称、特徴をまとめる。種隔壁調整の用途と、マトリックスバンドとリテーナーの使用法についてまとめる。(2h)					
3	A G：コンポジットレジン充填実習 術式と使用機器を理解するため、人工歯の窩洞にコンポジットレジンの充填をマネキン上で実習する。 [課題(復習)]コンポジットレジン充填と研磨の手順をまとめ、制作物の自己評価をする。(2h) B G：仮封材の取り扱い実習 仮封の目的・仮封材の種類・用途を理解し、取り扱い方法を習得する。 隔壁調整の取り扱い実習：各種隔壁調整の用途を理解し、タッフルマイヤー型マトリックスバンドとリテーナーの使用法を習得する。 [課題(復習)]各種仮封材の種類、用途、特徴をまとめる。タッフルマイヤー型マトリックスバンドとリテーナーの取り扱いを復習する。(2h)					
4	A G：仮封材の取り扱い実習 仮封の目的・仮封材の種類・用途を理解し、取り扱い方法を習得する。 隔壁調整の取り扱い実習：各種隔壁調整の用途を理解し、タッフルマイヤー型マトリックスバンドとリテーナーの使用法を習得する。 [課題(復習)]各種仮封材の種類、用途、特徴をまとめる。タッフルマイヤー型マトリックスバンドとリテーナーの取り扱いを復習する。(2h) B G：コンポジットレジン充填実習 術式と使用機器を理解するため、人工歯の窩洞にコンポジットレジンの充填をマネキン上で実習する。 [課題(復習)]コンポジットレジン充填と研磨の手順をまとめ、制作物の自己評価をする。(2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
5	成形歯冠修復材研磨実習：前回充填したコンポジットレジン ^① の研磨を行う。その際のアシスタントワークも習得する。 各種研磨具：研磨具について学び、特徴を理解する。 [準備・課題]コンポジットレジン ^② の研磨の手順をまとめ、制作物の評価をする。(2h)
6	個人トレーの作製実習：精密印象採得時に使用する個人トレー作製を行い、使用方法について理解を深める。 歯科用ワックスについて：各種ワックスの特徴と用途を学び、咬合採得実習を行う。 [準備・課題]個人トレーの作成方法と用途、各種ワックスの特徴、用途を復習する。(2h)
7	合着材・接着剤の知識と取り扱い①：合着材・接着剤の性質、使用する器材について学修する。 [課題(復習)]合着材・接着剤の性質、使用する器材についてまとめ、取り扱いの復習をする(2h)
8	合着材・接着剤の知識と取り扱い②：合着材・接着剤の性質、使用する器材について学修する。 [課題(復習)]合着材・接着剤の性質、使用する器材についてまとめ、取り扱いの復習をする(1h)
時間外での学修	[課題]は授業の到達目標達成に必要な内容です。()の標準学修時間をめどにして、自宅学修や放課後を活用して確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	知識と技術の習得にとどまらず、実習の中で職業人としてのマナーを学び、歯科衛生士ならではのアシスタントワークができるよう努力してください。 オフィスアワーはG404にて木曜日5限目です。

【4H5S205】診療補助実習Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	飯岡 美幸・藤塚 未子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科医療を行う際、術者とチームを組む補助者は積極的かつ確実な共同動作が要求される。加えて、歯科衛生士としてどのように診療にかかわるかが重要である。この授業では、共同動作の概念を理解したうえで、保存修復・歯内療法(歯髄処置)を中心に、それぞれの診療の術式とその中で使用される器材の準備、取り扱い方法を習得する。また、診療時における共同動作を行う上で歯科衛生士として必要な知識・技術を学ぶ。					
実務家教員	飯岡：歯科医院歯科衛生士9年 藤塚：歯科医院他歯科衛生士5年					
授業方法	代表的な歯科治療で使用されている器具、器材の名称、用途、使用法について学ぶ。保存修復・歯内療法などと関連づけて学修する。ロールプレイやグループワークを中心に進めていきます。					
到達目標	知識・理解	印象材の特性と器具の用途について説明できる 保存修復・歯内療法のための的確なアシスタントワークをするために、術式と其中で使用される器材の準備、取り扱いを説明できる。			◎	
	技能	保存修復・歯内療法における的確なアシスタントワークをするために、術式に合わせた器材の準備、取り扱いを実施する。 積極的かつ確実な共同動作を行うために、歯科治療におけるチームワークの重要性を理解し、適切な技術・態度を実施することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	チームでの様々な状況に対応する能力を培うために、自ら問題点を探し出し、関心と意欲を持って実習に参加する。 提出物の期限、身だしなみ、忘れ物などの自己管理ができる			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	小テスト	5	-	-	-	5
	実技チェック	-	-	45	-	45
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	45	-	45	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取り組み、課題提出(期限)、身だしなみ・忘れ物・実習当番参加状況などで評価します。フィードバックとして理解度確認テストを実施し、解答を解説します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。知識・理解60%、技能60%取得で単位を認めます。					
ICT活用	学生ポータルを質問等に活用します。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版社株式会社(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』医歯薬出版社株式会社(4,620円)ISBN:978-4-263-42820-7 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』医歯薬出版社株式会社(3,850円)ISBN:978-4-263-42851-1 必要に応じてハンドアウトを配付します。					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	各種印象材総論：精密印象材について [課題(復習)]印象採得実習の使用器具、手順について復習する。(1h)					
2	間接修復(インレー修復)法アシスタントワーク実習 インレー修復物作成・合着のための術式、使用機器を理解する。インレー修復物作成のための印象採得やアシスタントワークの方法を修得する。 [課題(復習)]間接修復物作成のための術式、使用機器をまとめる。(2h)					
3	ラバーダム防湿法①：ラバーダム防湿法の意義と使用する基本的な機器について理解する。マネキンにおいて機器の取り扱いと、基本的な術式を修得する。 [課題(復習)]ラバーダム防湿法の手順、使用機器をまとめる。マネキンで手技を確認する。(2h)					
4	ラバーダム防湿法②：ラバーダム防湿法に使用する各種機器について理解する。マネキンにおいて各種機器の取り扱いと、術式を修得する。 [課題(復習)]ラバーダム防湿法の手順、使用機器をまとめる。マネキンで各種機器を使用した手技を確認する。(2h)					
5	歯内療法①：歯髄保存療法・麻酔抜髄法における使用器具、アシスタントワーク、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(予習)]麻酔抜髄法の種類、適応症、使用薬剤、術式について確認する。(1h) [課題(復習)]麻酔抜髄法で使用する機器、術式について確認する(1h)					
6	歯内療法②：根管治療・根管充填における使用器具、アシスタントワーク、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(復習)]根管治療・根管充填で使用する機器、術式について確認する(2h)					
7	歯内療法③：根管治療・根管充填における使用器具、アシスタントワーク、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(復習)]根管治療・根管 充填で使用する機器とアシスタントワークについて確認する(1h) [課題(復習)]5～7回の学修内容について知識の整理をする。(1h)					
8	実技チェック 精密印象採得、保存修復・歯内療法において使用する器具・器材に関する名称や用途の説明、トレーセッティングができるかチェックをする。 第1～7回のまとめと課題の確認をする。 [課題(復習)]今まで学修したことを復習する(2h)					
時間外での学修	「保存修復学・歯内療法学」「口腔外科学」などの科目との関連が深いので講義で学修したことをしっかりと復習してください。それらの講義内容と本科目で学修する内容の両方を総合的に理解することが大切です。時間外学修で関連付けをしっかりと行ってください。【この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への
メッセージ

この授業で使用される器具・器材は、臨床で毎日見るようなものばかりです。名称、用途を確実に覚えておくことで、臨床実習がより理解できます。課題は指定された日時に提出してください。
オフィスアワー：G404で木曜5限目です。

【4H5S206】診療補助実習Ⅲ		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	小原 勝・飯岡 美幸・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科臨床の場で直接患者と接する歯科衛生士が、患者の状態を示す臨床データを正しく理解することは必要なことであり、それを踏まえた臨床対応は必要不可欠なものとなります。そのため、各種の検査方法や正常値と病態などの関係の基礎知識を理解することが必要となります。ここでは臨床検査の基礎知識の修得と検査方法を学びます。また、歯科治療中の偶発症時の対応として、救急蘇生法について学びます。					
実務家教員	小原：大学病院勤務歯科医師15年、飯岡：歯科医院歯科衛生士9年、今井：歯科医院歯科衛生士10年					
授業方法	講義と示説で理解し、実際に検査を行いながら測定方法を修得し、データを分析していきます。また、救急処置として基本を身につけていきます。問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて授業・実習を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には口頭やポータルサイトなどで対応します。					
到達目標	知識・理解	臨床検査方法および検査値を理解できる。			◎	
	技能	臨床検査の概要を説明し実施する。			◎	
	関心・意欲・態度	主体的に学修できる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	-	-	-	50
	実技試験	-	-	30	-	30
	課題提出	10	-	-	5	15
	受講態度	-	-	-	5	5
	合計(点)	60	-	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験にて評価します。期間中どこかで実技試験を行います。課題提出は授業内における小テストやレポートで評価します。履修カルテは内容、提出状況を総合的に評価します。					
ICT活用	ポータルサイトなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。					
課題に対するフィードバック	課題などのフィードバックは即対応可能なものにはその場で、時間を要するものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 臨床検査』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(2,420円) ISBN:978-4-263-42829-0					
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	臨床検査の目的と意義 生理検査(脈拍、体温、血圧)：臨床検査の必要性と歯科衛生士の役割について 生理検査の種類とその概要 脈拍・体温測定実習 p1~23 [課題] (準備)生理検査・検体検査についてまとめる(1h) (復習)これまで学んだことのある臨床検査についてまとめる(0.5h) (予習)血圧測定法について予習する(0.5h)					
2	口腔外科①(普通拔牙器具・局所麻酔器具の取り扱いについて学ぶ) 口腔外科教科書 p138~160 [課題] (準備)拔牙器具についてまとめる(1h) (復習)実際の血圧測定法について整理する(0.5h) (予習)小手術器具について予習する(0.5h)					
3	口腔外科②(小手術器具の取り扱いについて学ぶ) 口腔外科教科書 p138~172 [課題] (準備)小手術器具(①切開排膿、②硬組織小手術、③軟組織小手術についてまとめる(1h) (復習)拔牙器具について整理する(0.5h) (予習)実習試験について練習する(0.5h)					
4	臨床検査法実技チェック 口腔外科教科書 p138~172 [課題] (準備)口腔外科器具についてまとめる(1h) (復習)実技チェックを自身で分析し、知識・技術不足の項目について復習する(0.5h) (予習)歯科口腔外科に必要な血液検査の予習をする(0.5h)					
5	血液検査(1)(血液型検査、出血性素因の検査、貧血検査、感染症検査、肝機能検査)・病理検査) p24~32、p33~49 p72~82 検査の目的および方法 正常値の理解と検査結果からわかること [課題] (準備)血液検査の種類(感染症・肝機能・腎機能)についてまとめる(1h) (復習)血液型検査について整理する(0.5h) (予習)血液検査(感染症検査・肝機能検査)について予習する(0.5h)					
6	口腔領域の臨床検査 唾液や歯垢を検査する方法、検査結果からわかること p50~64 [課題] (準備)口腔領域の検査(口腔乾燥・舌圧・口唇圧など)についてまとめる(1h) (復習)電気歯髄診断について整理する(0.5h) (予習)救命救急法の予習をする(0.5h)					
7	救命救急法 救急蘇生の処置法を身につける(BLS実習) P11~23 [課題] (準備)救命救急法 救急蘇生の処置法についてまとめる(1h) (復習)実技チェックを自身で分析し、知識・技術不足の項目について復習する(0.5h) (予習)糖尿病の予習をする(0.5h)					
8	糖尿病検査 尿検査・糖尿病検査の目的及び方法 正常値の理解と検査結果からわかること p36~37、p70 [課題(復習)]歯科治療における糖尿病患者の注意事項を復習する(1.5h)					
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要をなる内容ですので()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					

受講学生への メッセージ	受講学生へのメッセージ：身近な環境から世界的視野まで口腔外科・歯科麻酔について考え、これらを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーは(G205)で毎週(木)曜日(16:10)から(17:40)です。質問などあれば来てください。
-----------------	--

【4H5S207】診療補助実習IV		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	水嶋 広美・海原 康孝・川島 智子・足立 寛子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	歯科診療における画像検査の手順と目的を中心として歯科診療補助業務について学修します。また、診療過程における知識・技術や器具の取扱い、共同動作と患者への配慮にいても身につけていきます。開講時期が臨床・臨床実習に出る前の期間であるため、実際の臨床の場に即した技能を修得していきます。					
実務家教員	海原康孝『大学病院歯科医師 27年』 足立寛子『歯科医院他歯科衛生士 15年』 川島智子『歯科医院他歯科衛生士 5年』					
授業方法	前半は主として相互実習のなかで画像検査をおこないます。後半は、自分自身の検査結果を分析する方法を学び、口腔内の状態を客観的に観察したものをレポート作製しまとめていきます。作製したレポートをグループごとに検討し発表後、フィードバックを行います。					
到達目標	知識・理解	1. 口腔内写真撮影法、顔面写真の意義・方法を述べるができる 2. X線写真撮影法についての知識・手技を述べるができる 3. 暫間被覆冠作製方法及手順を説明し作製することができる。 4. 口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する 5. 口内法エックス線撮影のフィルムの位置づけ方法と写真処理の方法と手順を説明し実施できる。 6. パノラマエックス線撮影の患者の位置づけを説明し実施できる。 7. 画像や模型から情報の分析法を説明できる。			◎	
	技能	1. デジタル口内撮影法の10枚法を作成しまとめる。 2. 暫間被覆冠の作製及び手順をまとめる。			△	
	関心・意欲・態度	1. 歯科診療においてそれぞれの課題に関心を持ち、積極的に取り組み理解することができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	-	-	-	60
	製作物	-	-	5	-	5
	レポート	20	-	5	5	30
	受講態度	-	-	-	5	5
	合計(点)	80	-	10	10	100
評価の特記事項	筆記試験、受講態度、課題の内容、提出状況などから総合的に評価します。取り組んだ製作物については、フィードバックしながら解説をしていきます。実習での画像検査、製作物については、自宅でレポートを作成し、期日に提出してもらいます。受講態度は授業への取り組み様子と毎回実習後の実習記録まとめと提出状況で評価していきます。全授業の3分の1以上欠席の場合は、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、授業のなかで活用しコメントをします。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版株式会社(6,600円)ISBN:978-4-263-42840-5 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版株式会社(3,080円)ISBN:978-4-263-42828-3 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』医歯薬出版株式会社(3,520円)ISBN:978-4-263-42850-4 『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』医歯薬出版株式会社(3,740円)ISBN:978-4-263-42823-8 『最新歯科衛生士教本 小児歯科』医歯薬出版株式会社(3,300円)ISBN:978-4-263-42824-5 『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』医歯薬出版株式会社(3,300円)ISBN:978-4-263-42825-2 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 「1年次に購入済」 最新歯科衛生士教本 歯科放射線 「1年次に購入済」 最新歯科衛生士教本 歯科機器 「1年次に購入済」					
参考書・教材	資料は適宜配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(水嶋・海原)	実習ガイダンス 画像検査について(口腔内撮影法の手順、エックス線撮影法、顔面写真)目的、手順についてを考える [課題(復習)]画像検査について復習してまとめる。(2~3h)					
2(水嶋・海原・足立・川島)	口腔内写真撮影法を理解する(カメラ仕組み、準備、手順を実習)(課題の確認) パノラマX線の撮影テクニックの理解と撮影実習を修得する [課題(復習)]学んだ内容を復習し、課題をまとめる(2h~3h)					
3(水嶋・海原・足立・川島)	口内法エックス線撮影(10枚法)フィルムの位置づけと保持を修得する [課題(復習)]撮影方法・撮影写真を整理し、エックス線像を復習してまとめる(2h~3h)					
4(水嶋・海原・足立・川島)	暫間被覆冠及び仮着材の取り扱いを考える(暫間被覆冠を使用する方法・印象法) [課題(復習)]暫間被覆冠の作製法を復習してまとめる(2h~3h)					
5(水嶋・海原・足立)	口内法エックス線撮影(10枚法)をフィルム用フォルダーを使用してデジタル撮影法を実習する デジタル撮影後のフィルムを画像処理する方法を修得し、デジタル撮影後の写真をパソコンでマウントする方法を学ぶ [課題(復習)]撮影した写真を整理し、撮影方法についてまとめる(2h~3h)					
6(水嶋・海原・足立)	口腔外科における歯科衛生士の業務を考える(第1回~5回の課題の確認) [課題(復習)]前半で学んだ内容を復習する。口腔外科における歯科衛生士の業務内容を復習してまとめる(2h~3h)					
7(海原・水嶋)	資料分析と治療計画の立案I エックス線検査、口腔内写真、模型の分析法を学ぶ 実習ことの課題も参考にしながら、自分の口腔内を分析してまとめる [課題(復習)]模型分析法などの学んだ内容を復習してまとめる(3h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
8(海原 水嶋)	資料分析と治療計画の立案Ⅱ エックス線検査、口腔内写真、模型分析した物をグループごとに検討し発表する。 今までの課題レポートを活用して、自分なりの意見をまとめる。 [課題(復習)] 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(3h)
時間外での学修	実習を受けるにあたり、事前に該当分野の予習をしてから臨むようにしましょう。各单元ごとの課題をまとめ期日までに提出してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	本実習の知識は、2年生前期までに既習の内容が多く、臨床・臨地実習の現場で日常行われます。テキストや図書館の活用で、積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーは研究室(G306:G号館3F)で毎週火曜日の16:20から17:30です。

【4H5A209】介護技術演習		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	井野根 繁子・藤原 学					
資格・制限等	特になし					
授業内容	介護は実践であり、日常生活を営むことが困難な人であっても、一人の人として尊厳を守り人間らしく生きられるように日常生活を支えることです。この理念を具体化するための手段が介護技術であり、後期に口腔健康管理演習を履修する前に介護技術を身につける必要があります。近年、口腔健康管理演習の実践は歯科衛生士に求められている領域であり、車椅子の操作方法や、移乗介助方法、衣類の着脱法など基礎技術を修得します。					
実務家教員	井野根 繁子 歯科医院歯科衛生士12年 介護老人福祉施設19年 藤原 学 介護老人福祉施設17年					
授業方法	主に実習中心の授業になります。近年の歯科衛生士が必要とされる現場で活用できるように、基礎介護技術を身につける実習です。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義、理念、原則を理解する。 ・認知症者の生活を理解する。 ・視覚障がい者体験実習を通し、歩行介助の留意点を理解する。 ・高齢者疑似体験を通して高齢者の特徴・注意点を理解する。 ・食事介護における注意点を理解する。 			◎	
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子を確実に操作できる。 ・ベットや車椅子の移乗介助や体位変換ができる。 ・身体の清潔の意義を理解し、部分清拭（顔面）ができる。 			◎	
	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で体調管理に心がけ、主体的に受講する。 ・対象者本位の態度で対応できる。 			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	40	-	40
	課題評価	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	-	40	10	100
評価の特記事項	課題に対して適切な回答ができています。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題記載し提出後評価、質問事項事項に対しては、次回の講義時に回答します。					
テキスト	『介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 『技術と実践』公益財団法人 介護労働安定センターISBN: 978-4-907035-48-8					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	介護概論：（藤原・井野根） 介護の意義、理念、原則を述べ、わが国の人口構成の現状と将来について解説する。 認知症者の生活について理解する。（YouTube視聴） [課題(復習)] 認知症者の生活を理解し、介護の意義、理念、原則を踏まえうえて歯科衛生士としての関りをレポートにまとめる。（2h）					
2	高齢者疑似体験：ゴーグルを使用して白内障等の疑似体験をする。 視覚障がい者体験や歩行介助実習を通して介護技術を指導し、実習する。 車椅子の使用方法を学び、安全に使用、介助できるよう実習する。 [課題(復習)] 高齢者疑似体験、福祉用具の活用を学び、レポートにまとめる。（2h）					
3	A G：食事介護の講義・相互実習を行う。（井野根） [課題(復習)] 食事介護について基礎知識をまとめる。（2h） B G：生活行為を成立させるための技術1（藤原） 身体の清潔介護（整容・部分清拭の介護） 身体の清潔について講義し、部分清拭（顔面等）の実習をグループで行う 介護用ベットを使用し、シーツ交換、衣類の着脱法について講義、実習を行う。 [課題(復習)] 身体の清潔、シーツ交換・衣類の着脱法について実習にて復習する。（2h）					
4	A G：生活行為を成立させるための技術1（藤原） 身体の清潔介護（整容・部分清拭の介護） 身体の清潔について講義し、部分清拭（顔面等）の実習をグループで行う 介護用ベットを使用し、シーツ交換、衣類の着脱法について講義、実習を行う。 [課題(復習)] 身体の清潔、シーツ交換・衣類の着脱法について実習にて復習する。（2h） B G：食事介護の講義・相互実習を行う。（井野根） [課題(復習)] 食事介護について基礎知識をまとめる。（2h）					
5	A G：生活行為を成立させるための技術2（井野根） 体位変換・移動動作：意義、目的を講義し、ユニットを使用して移動動作の実習を行う。 [課題(復習)] 体位変換・移動動作の意義、目的を復習する。（2h） B G：生活行為を成立させるための技術2（藤原） 体位変換・移動動作：ベットを使用し、体位変換・移動動作等の実習を行う。 [課題(復習)] 体位変換・移動動作について復習する。（2h）					
6	A G：生活行為を成立させるための技術2（藤原） 体位変換・移動動作：ベットを使用し、体位変換・移動動作等の実習を行う。 [課題(復習)] 体位変換・移動動作について復習する。（2h） B G：生活行為を成立させるための技術2（井野根） 体位変換・移動動作：意義、目的を講義し、ユニットを使用して移動動作の実習を行う。 [課題(復習)] 体位変換・移動動作の意義、目的を復習する。（2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
7	基礎技術のまとめ：実技チェック（井野根・藤原） [課題(復習)] 実技チェック後、技術不足について指導者から指摘された項目を復習する。(2h)
8	介護技術知識のまとめ（井野根 藤原） (1～6回の課題の確認) [課題(復習)] 小テストで行った内容について復習する。(1h)
時間外での学修	次の授業で小テストを実施しますので、授業内容を必ず復習して下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	日頃から人間に対する観察力を養う必要があります。また、新聞等で高齢者・障がい者に関する記事を読み、関心を持つことを望みます。 オフィスアワーは、授業終了後に教室で行います。（井野根・藤原）

【4H5A110】看護概論		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
教員	水上 和典						
資格・制限等	特になし						
授業内容	歯科衛生士と同じく、医療専門職である看護の知識を学ぶことは専門性を高めるための一助となる。本講では看護の基礎知識や技術を学ぶとともに、疾患の知識や社会資源にも触れることで、地域保活ケアの拡充や多職種協働にむけた考え方を養うことを目的とする。						
実務家教員	病院 5年						
授業方法	講義資料をもとに、講義および演習をおこなう						
到達目標	知識・理解	看護における解剖や疾患、コミュニケーション、環境調整の視点などの基本的な知識の理解ができる			◎		
	思考・判断・表現	地域包括ケアの拡充のために必要な多職種協働の理解と、実現のための方法を考えることができる			◎		
	技能	看護における基本的な看護技術の実施ができる			○		
	関心・意欲・態度	講義及び各課題では各自の関心のあるテーマの選定をし、講義へ積極的に参加し自己の意見を述べる事ができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		30	20	-	-	50
	小テストおよび課題		10	10	-	-	20
	ワークシート・リアクションペーパー		-	-	10	10	20
	受講態度		-	-	5	5	10
合計(点)		40	30	15	15	100	
評価の特記事項	小テストや課題レポートは講義のなかで提示・実施します。						
ICT活用	講義質問やアンケートをweb上での意見反映をおこないます。						
課題に対するフィードバック	小テストや課題は講義で解説、返却して理解度を深めます。						
テキスト	『なし』						
参考書・教材	参考書：系統看護学講座シリーズ（医学書院）、ナースングラフィカシリーズ（メディカ出版）、他 教材：適宜、資料の配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	看護概論で学ぶこと、健康と歯科衛生士 ・ガイダンス（講義の進め方、評価方法、授業内容） ・健康の概念と看護および技術とは何か ・チーム医療と歯科衛生士の役割 [課題(復習)]（3h） ・資料をもとに、関心を持ったテーマについてのレポート ・講義に取り上げてほしいもの、感想（webアンケート）						
2	患者に適した環境を整える ・ナイチンゲールの業績からみる環境を整えることの大切さ ・医療職者が整えるべき環境の視点と基準 ・医療事故と環境 [課題(復習)]（3h） ・資料をもとに、自身の周囲の環境についてのレポート ・KYTトレーニング問題の考察						
3	医療者に求められるコミュニケーション ・医療職者のコミュニケーションスキルの向上 ・プロセスレコード [課題(復習)]（3h） ・対人関係の問題場面の抽出とプロセスレコードの記載（メール提出）						
4	基本的な看護援助技術 [課題(準備)]ボディメカニクスの留意点（2h） ・ボディメカニクスと移動の技術（車椅子・ストレッチャーの操作） ・清潔・安楽の援助 [課題(復習)]（3h） ボディメカニクスと清潔の援助の留意点、ワークシート						
5	医療者としての患者に対する配慮や工夫 ・環境測定 ・プロセスレコード検討会 [課題]（3h） （復習）患者、生活者にとって望ましい環境、自己の対人関係の振り返り						
6	認知症と社会のあり方 ・認知症の概要 ・医療的倫理（抑制） [課題]（5h） （復習）解剖生理に関する知識をまとめる、認知症JR事故についての自己の意見をまとめる						
7	・地域で生活する療養者を支える社会資源（医療・保険・福祉） ・介護保険制度 [課題]（5h） （復習）自分の居住する地域の社会資源を調べ、活用事例をまとめる						
8	・経口摂取と口腔ケア ・経管栄養の実際 ・歯科衛生士のありかた [課題]（2h） （復習）評価レポートに向けてのテーマの選定および考察						

時間外での学修	課題は自ら調べてまとめる、その習慣を身につけましょう。他者に対して物事を整理し、説明ができることは根拠に基づいた深い理解となっていることを表します。(本講義における講義時間外での望ましい総学修時間：30h)
受講学生へのメッセージ	看護のなかの限られた部分にはなりますが、様々な視点で皆さんの役に立つ要素を取り入れていきたいと思えます。意見・質問は講義後の時間や研究室へどうぞ。 オフィスアワーは研究室（I 302）、講義日の16：20～17：30とします。

【4H6A401】臨床・臨地実習 I		歯科衛生学科		2年後期		
		6単位	必修	実習	270時間	
教員	小原 勝・海原 康孝・加藤 智樹・久本 たき子・松川 千夏・水嶋 広美・飯岡 美幸・今井 藍子・					
資格・制限等	未修得科目数による制限有り					
授業内容	前半は、臨床・臨地実習に関するオリエンテーションやその前準備を行い、学外実習前の最終チェックを行う。後半は、学内で獲得した知識・技術を臨床場面に適応できるように、理論と実践を結び付ける能力を養うことをねらいとして各実習施設における実習を行う。実習施設は、歯科医院、保育園、高等学校である。					
実務家教員						
授業方法	前半7週は、学内において演習、実習、実技試験等を行う。後半8週は、学外の各実習施設にて実習を行う。また、質問等がある場合、Academic Advisorや学生ポータル、メールで受け付けます。					
到達目標	知識・理解	医療人として、備えるべき専門的な基本的知識を述べる。			◎	
	技能	1. 患者の主訴を把握し、歯科治療の流れを予測する。そして、感染予防対策に十分に留意し指示された器具を準備する。 2. 臨床・臨地実習の学びと反省について報告し、プレゼンテーション力を身につける。			○	
	関心・意欲・態度	医療人として日常の自己管理に心掛け主体的な実習を行い、自学自習ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実習日誌・レポート	40	-	-	-	40
	臨床実習施設の評価	20	-	-	-	20
	実技試験 (学内)	-	-	10	-	10
	制作物	-	-	5	-	5
	実習報告発表	-	-	5	-	5
	受講態度	-	-	-	20	20
合計(点)	60	-	20	20	100	
評価の特記事項	欠席・遅刻・早退した場合、補充を必ず課します。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	前半7週では、毎回の実習の課題を行い、6週目に技術・知識の確認テストとして実力チェックを行います。到達目標に届いていない学生は、フィードバックを行い技術が身につくように再確認テストを行い実力をチェックします。後半8週では、実習日誌・レポート課題をAcademic Advisorに提出し、Academic Advisorからフィードバックを行います。					
テキスト	実習日誌の作成には、1、2年生時に購入したテキストが必要です。					
参考書・教材	テキストは、その都度指示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1週～15週	<p>授業内容・目標:前半1週～7週 「歯科予防処置」、「歯科保健指導」、「歯科診療補助」、各分野での総括実習を行う。 ・臨床実習日誌、レポートの記述方法を理解する。 ・医療事故対策講座 ・臨床実習(歯科医院)ガイダンス ・保育園実習ガイダンス ・高校実習ガイダンス ・臨床実習前の実力チェック 各分野において学外実習前の最終チェックを行い、評価結果の低い学生は再指導を受ける。 [課題(復習)]学修内容を復習してまとめる。(8h) 実技試験に必ず合格する。</p> <p>後半8週～15週 ・歯科医院における実習 ・保育園における実習 ・高等学校における実習 臨床・臨地実習における学びや成長した事や自己の課題について、実習報告として発表を行う。 [課題(復習)]毎日の実習内容(実習日誌・課題レポート)を復習しまとめる。(16h)</p>					
時間外での学修	臨床・臨地実習に不安なく臨めるように、知識面・技術面の総復習を行いましょう。後半の学外実習では、毎日実習日誌を書きます。テキスト等で調べて正確に記述すること。また、臨地実習においては、事前にレポート作成を課します。実習施設や対象者を把握し実習に臨むように留意してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：24時間】					
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認められません。欠席した分は必ず補います。各自健康管理には十分気を付けて下さい。また、実習生という立場をわきまえ、謙虚な態度で実習に臨んで下さい。オフィスアワーは、各担当教員の時間帯になります。					

【4H6A404】臨床・臨地実習Ⅳ		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	選択必修	実習	45時間	
教員	小原 勝・海原 康孝・加藤 智樹・久本 たき子・松川 千夏・水嶋 広美・飯岡 美幸・今井 藍子・					
資格・制限等	未修得科目数による制限有り					
授業内容	総合病院の歯科・口腔外科における見学実習					
実務家教員						
授業方法	総合病院の歯科・口腔外科において、口腔外科診療室を中心として見学実習を行う。					
到達目標	知識・理解	1. 有病患者に対する知識を備え、口腔外科の施術方法を列挙しその施術に必要な器具、器材の用途を述べる。 2. 感染予防に対する知識及び対処法や器具の消毒・滅菌方法を理解する。			◎	
	関心・意欲・態度	医療人として日常の健康管理に心がけ、主体的な実習を行い自学自習ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実習日誌	30	-	-	-	30
	実習施設評価	50	-	-	-	50
	受講態度	-	-	-	10	10
	レポート提出状況	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	-	-	20	100
評価の特記事項	欠席・遅刻・早退した場合、必ず補充を課します。					
I C T活用						
課題に対するフィードバック	事前にレポート課題を提出し、後日各病院実習担当教員よりフィードバックを行う。必ず指導を受けてから実習施設で実習を行う。					
テキスト	『顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』医歯薬出版株式会社(3,740円) ISBN:978-4-263-42823-8 『臨床検査』医歯薬出版株式会社(2,420円) ISBN:978-4-263-42829-0					
参考書・教材	必要に応じ、1、2年生で購入したテキストを使用する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
7回	1. 総合病院実習前のオリエンテーションを受ける。 2. 総合病院の歯科・口腔外科で5日間の見学実習を行う。 3. 前のグループからの申し送りと実習終了後のフィードバックを行う。 [課題(復習)] 実習終了後、学んだことをまとめるために日誌を作成する。(5~10h)					
時間外での学修	総合病院での見学実習です。実習生として、安全に臨めるように知識・技術の復習を必ず行いましょう。また、事前に課題レポートを作成し知識を確認して実習に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：10時間】					
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認めません。欠席した日数は、必ず補います。各自健康管理には、十分気をつけてください。また、実習生という立場をわきまえて、謙虚な態度で実習に臨んでください。オフィスアワーは、各病院実習担当教員の時間帯になります。					